

山陽学会会誌

第五十三号

目次

一、大学の危機と教授の愚痴	公益財団法人岩陽学舎	理事	大
二、妖怪と私		舎友	吉
三、社会人となつて		舎友	田
四、なぜ人を殺してはいけないのか		舎友	井
五、この一年を通じて	東京工業大学情報理工学院情報工學系	〇	隆
六、お酒についての知識を得よう	目白大学人間学部人間福祉學科	〇	也
七、おいしいご飯屋さんについて	東京工業大学環境・社会理工學院建築學系	〇	森
八、建築観光の記録	東京学院大学総合文化政策学部総合文化政策學科	〇	本
九、「飲み屋と再開発」	早稲田大学文學部	〇	次
十、私が『バービー』について知っている二、三の事柄	早稲田大学文學部	〇	田
十一、インタースシップ体験記	日本大学理工学部機械工學科	〇	谷
十二、仏教と性的二元性	駒澤大学仏教工學部	〇	高
十三、筋トレについて	東京電機大学工學部第二部電氣電子工學科	〇	高
十四、一つの事を極めるか、それとも様々なことに挑戦するか	早稲田大学基幹理工學部學系II	〇	北
十五、旅行と映画	法政大学法學部法律學科	〇	大
十六、大学で学んでいること	慶應義塾大学經濟學部經濟學科	〇	吉
十七、「情報メディア」の単位取得	東京音楽大学音樂學部音樂學科	〇	森
十八、「竹取物語」から学べること	駒澤大学文學部國文學科	〇	井
十九、短慮と遠慮	上智大学総合グローバル學部総合グローバル學科	〇	隆
二十、生きていく上で大切なもの、幸せとは何か	青山学院大学経営學部経営學科	〇	也
二十一、Greenについて	東京歯科大学歯學部齒學科	〇	森
二十二、神道の大雑把な歴史	東京大学理科二類	〇	本
二十三、死ぬまでにしたい一〇のこと	日本大学經濟學部經濟學科	〇	次
二十四、子どもの体力・運動能力の低下	日本体育大学体育學部健康學科	〇	田
二十五、映画レビュー	神奈川大学經濟學部經濟學科	〇	谷
二十六、田舎のキャンパスと都会のキャンパス	中央大学法學部法律學科	〇	高
二十七、上京して	青山学院大学文學部フランス文學科	〇	高
二十八、編集後記	編集者・編集補佐	〇	北
役員名簿		〇	大

大学の危機と教授の愚痴

公益財団法人岩陽学舎 理事 大森 隆司

私は一九七七年に大学を卒業して大学院に進学し、さらに大学に助手として就職して以来、ずっと大学の世界で働き、最後は大学教授として教育と研究と管理の仕事を行ってきた。その間、大学の在り方は大きく変わってきた。ここでは、その経緯をお話しし、いま学舎にいる学生諸君の大学教員に対する理解の一助となることを願う。まあ、引退した教授の愚痴と思っただけのとおりありがたい。

大学の機能は教育と研究である。高校を卒業して学ぶ意欲のある学生に先端知識と社会で求められる技能を訓練する。端的に言えば、社会に有為な人材を送り出す高等職業訓練学校である。その教育の目標は、先端的な活動を通じて自ら考える能力とその基盤としての知識を身に付けさせることであり、そのための手段として研究が行われる。その意味で、教育と研究は大学の活動の両輪である。

その大学の教員は教育者であると同時に学問の開拓者であり、自らの信じることに従って先端研究を行う研究者である。私はそのような大学の姿にあこがれて大学教員となった。しかし、そこは世界の研究者がしのぎを削る競争の世界でもあり、夢破れて大学から去っていった仲間も多くいた。その競争を生き延び、研究者として独自の分野を作り出した人が大学教授とよばれる人々である。厳しい世界ではあるが、やはりそこはあこがれの世界であった。

ところが、一九九〇年代後半から事態が大きく変わってきた。国

の財政難に伴い大学の運営予算が削られ、それが研究費にまで及んできた。そのため大学教員は外部から研究資金を獲得することが推奨され、そのためにも研究論文を多く書くことが求められた。それは一見すると良い圧力のようにも見えるが、役に立つ・短期間で成果がでる研究テーマを選べということで、重要ではあるが役立ちつまでに時間のかかる基礎研究は後回しになることとなった。

そこにもう一つ、二〇〇三年に国立大学の法人化という波がやってきた。大学は定期的な目標を設定し、管理運営や社会貢献にも力を入れるよう圧力を受けた。結果、大学教員は教育と研究に加えて、管理運営や社会貢献も同時に行うことが求められた。その結果、まず会議が増えた。二〇〇五年頃には管理に関する会議のために研究時間が減少し、場合によっては授業を休講にして会議を行うこともあった。学生にはいい迷惑である。そして研究者というよりは教育者・管理者となっていた教授も多くいた。一方で、外部から研究費を獲得するには研究成果が求められ、その評価基準として論文数が求められる。そうすると、時間のかかる基礎的な研究は後回しになり、短期的に成果がでる表層的な応用研究が多くなる。いわゆるスクイズ（搾り取る）状態である。このような状態は、これから時間をかけて自らの学問の問いを深めていくべき若手研究者にとっては辛いことである。

このような大学の変化の結果、この二十年で大学教授という職業の魅力は大きく変わってきた。以前は、お金はないが研究の自由があり、自らの興味に従い深く研究を続けることを許された。それ

が、近年の毎年のようなノーベル賞の受賞につながっていることは間違いない。それが今日では、研究費を得るために短期に成果の得るテーマを選んで論文を数多く出す活動をせざるを得ない。もちろん。それが向いている研究者もいるのだが、やはり大学という教育と研究の両輪で人を育てつつ研究を深める場の在り方としては望ましくない。これは、ノーベル賞を受賞した先生方が共通して述べている日本の大学の問題である。

ここまでは、過去の大学にあこがれ、時代の変化に伴い自らの選択が正しかったのか、今更ながら考えさせられた、大学教授の愚痴であった。最後に、大学院と就職の関係について現状を述べよう。

大学は見方を変えると高等職業訓練学校と言え、大学院もまたその中に位置づけられる。大学院は二年間の修士課程（博士前期課程とも言う）と三年間の博士課程（博士後期課程）の二段階がある。一般に、理系では修士卒が就職には最も有利である。学部卒では就職後の配属を選べないが、修士卒であれば企業は貴重な人材として扱ってくれて研究開発に関わる部門に配属される可能性が高くなる。しかし文系では、学んだことを活かせる職場は限られており、就職に苦労する場合が多いと聞く。文系は修了後の進路をかなり意識して大学院に進む必要がある。

一方の博士課程は、基本的に研究者養成機関である。大学教員になるには博士学位は不可欠であるが、博士課程を出てすぐに定職につけることは少なく、任期付きのポストで競争の世界を生き抜いていかねばならない。ただ、研究という未知の世界に挑む仕事に夢を

感じる人にとっては楽しい職業である。最近では民間企業でも博士号取得者を採用するケースが増えている。できれば、夢を追いかけるチャレンジをしてほしいと思うのは、ノスタルジーであろうか？

妖怪と私

舎友（二〇二三年卒舎）

吉井 舜也

今号から若手の舎友が若干名舎誌へ寄稿するという企画がはじまった。伝統ある岩陽学舎だからこそ、このような新しい取り組みが重要と思う一方で、案を出すとは難航を極めるものでさらに孤独でもある。執筆者を募るもスケジュール調整もうまく適わず言い出しつぺの私が筆を取るようになる。なんと十年連続での舎誌への執筆という珍事である。二桁達成で盛り上がるのは大谷翔平だけで十分だ。

さて、今も当てのない生活をしながら理論研究を続けている自分だが、理論好きのくせに妖怪が好きだったりする。これは一見したら全く反対のものを愛好しているように映るかもしれない。しかし、私からすれば妖怪が好きなのも理論が好きなのも非常に近いものだし、さらに言えば妖怪が好きになったから理論を捏ねくり回す人間になってしまったとも言える。少しこのことについて述べて

みようと思う。

私と妖怪の出会い「ゲゲゲの鬼太郎」であった。もはや説明不要の妖怪漫画およびアニメであり、アニメについては現在第六期まで放送されているが、私が試聴していたのは第三期と第四期だった。ともあれ鬼太郎に登場する妖怪は怪異や畏怖といったものだけではなくむしろ魅力的なものであった。水木しげるの描く妖怪はどうか愛嬌やユーモラスさが滲み出ている。(余談だが私は水木妖怪の中でも特にあかなめと隼車のデザインが好きである。)もしいるのならそうであって欲しい姿に描かれた妖怪こそが水木妖怪なのだと私には思えてならないぐらいだ。

さて、このようなテーマで筆を執るぐらいだから今でももちろん妖怪は好きである。しかし、妖怪なんて実際にいないことはとうの昔に気づいているし、すると妖怪のなにが今まで私を惹きつけてきたのかという疑問が生じてくる。私なりの答えを言ってしまうと妖怪の魅力は存在しないことにある。妖怪とはどのようにして観念されるかといえば、まず日常で不思議、または不可解な出来事が生じたとする。そのような出来事を説明するために考えだされるものの一つが妖怪なのである。現実には存在している物事を観察して存在しないものが生まれてくるというのはなんとも奇妙であり、また魅力的な話ではあるまいか。少なくとも私が妖怪を好きな最大の理由はここにあると言っている。

ところで、この「あるものからないものが生まれる」というのは理論というものの特徴でもある。というのも理論とは対象の観察を

通して、個々の具体性を切りおとし共通点を抽象していくことで構築されていく。換言すれば、理論とは個々の事象に対してそっくりそのまま適用することはできないのである。せいぜい近似的に成り立つというのが精一杯であろう。この意味で理論というのは現実にあるものを集めてつくられた存在しないものなのである。

以上は私なりの見解だが、妖怪も理論も全く別物に見えて案外は似たもの同士なのかもしれない。妖怪好きが転じて理論をするようになったのか、あるものからないものを生みだすことが好きな性分があつて、それが私に妖怪や理論へと目を向けさせたのか。今となつてはどちらかわからない。ただ、過去に自分が触れてきたものが実は意外なところで繋がっており、それが自信を形成する一要素だとふと気づくときが人生のうちたまに訪れる。妖怪と理論が私にとってまさにそれである。

若いときは何かと機会を損ねてしまいがちだ。役に立たないと言つて苦手な科目の勉強を怠つたりする。電車の移動時間を自分でも面白いかどうかよくわからない漫画を読むことに充ててしまつたりする。せっかくなら自分から何かに関心を向けてそれに取り組んでみたらどうだろう。すると、その経験がいつかの自分へと繋がるかもしれない。そしてそれは案外と気分がいい。

所詮人間なんて大した判断力は持ち合わせていないし、経験の少ない若者なら尚更である。(私も場合によっては若者に教えられるのであろうか)やるかやらないかを考えるぐらいならとりあえずやってみるに越したことはない。やらないからには本稿のような話

も一切起こらないのだ。頭を動かすより体を動かしている方が人間
案外上手くいくのではとふと思うこの頃である。

社会人となつて

舎友（二〇二三年卒舎） 原田 春玲

私は今年（二〇二三年）から住友商事グローバルメタルズという
鉄鋼専門商社に入社し、線材特殊鋼鍛事業部と言う部署で勤務し
ている。当部署では、言葉の通り線材、特殊鋼、鍛造品、鍛造品の
鉄を取り扱うのだが、私もまだ部署に入ったばかりで勉強中の身分
であるため、簡単な説明に留めておく。まず、線材とは鉄を線状に
加工したものであり、自動車のタイヤに入っているスチールワイ
ヤー等に用いられている。自動車のタイヤは一見ゴムだけで構成さ
れているように見えるが、実際は非常に重い車体を支えるために線
状の鉄を鎖帷子のように組み込むことで強度を高めているのであ
る。次に特殊鋼だが、これは読んで字のごとく特殊な鋼のことであ
る。通常の鉄では出せない性質を鉄とマンガン、硫黄等の他元素を
掛け合わせて引き出したものや、炭素濃度を高めて通常では出せな
い強度を鉄に生み出したものが上記の特殊鋼と呼ばれるものとな
る。最近、面白いと感じたもので言うと、今後国内に導入が予定さ

れているリニア鉄道のレールに用いられる特殊鋼が挙げられる。な
ぜなら、リニア鉄道が磁力を用いて走行する乗り物であることか
ら、同レールには非磁性の鉄が用いられるからである。小学校で学
ぶ実験からもわかるように鉄は磁石でくっつく磁性を強く持っている。
しかし、ある元素を組み合わせることで鉄から磁性を取り去る
ことが出来るのである。三点目に製造だが、これは坩堝に溶けた鉄
を流し込み型に入れることで複雑な形状の鉄製品を作る技術のこと
であり、自動車のエンジン等に使われている。そして、最後に鍛造
だが、これは刀鍛冶をイメージして頂けると分かりやすい、鉄を熱
いうちに打つことで強度を高める技術であり、自動車で壊れたら人
が死ぬ可能性のある重要な部品のような、絶対に壊れてはいけない
部分に使われることが多い。以上が自分の配属された部署説明であ
る。

次に当部署における私の業務説明だが、簡単に要約すると私は日
系大手自動車メーカーのエンジン部品やトランスミッションと呼ば
れる足回り部品に使われる鉄の商流・物流を管理する業務を担って
いるが、一つのミスを犯すと新人である私でも五〇〇〇万円程の利
益を逃す可能性がある仕事であるため、多くの客先と密にコミュニ
ケーションを取り、商流・物流に関わる情報を常にインプットでき
る状態を客先との間で構築するのである。そのために最低限必要と
なるのが、正確かつタイムリーなコミュニケーションである。正確
なコミュニケーションについて頭では理解できるが、国語の問題を
思い出してほしい。全員が満点を取れる国語の文章を書ける人はい

るだろうか。しかし、一つの情報伝達ミスで損失に繋がるビジネスではこの正確さが求められるのである。そして、タイムリーなコミュニケーションとは新鮮な情報を届けるために重要となる。これもLINEで即レスする人にとっては朝飯前のように感じるが、これが先程の正確さと組み合わせると、誰もが同じ理解に及ぶ文章を即座に考えて返信、返答しなくてはいけなくなる。こうなるとどうしても考える時間が生まれてしまう。現に私も片方はできて両立することは難しいと感じている。

このような課題はいくつもあり、毎日指摘と注意の連続である。褒められることは研修が終わった瞬間からほばないと言える。異常に思えるかもしれないが、全員が真剣に仕事していると考えれば、ミスに対して厳しくなることは当然と思える。そして、これは厳しい世界でも金が欲しいし、世界を舞台に大きな仕事をしたいという自分の考えに合わせた結果の話であり、厳しさに耐えながらも真剣にこの仕事に向き合っていきたいと思う。

なぜ人を殺してはいけないのか

早稲田大学 教育学部英語英文学科 卒

國次 侖

「他人を殺してはいけない。」これは誰もが持っている共通認識であると共に、殺人はどのような理由があれども禁じられた行為である。これは世界中どこにおいても共通の認識であり、大昔からそのように考えられてきたということは言うまでもない。それでは、なぜ人を殺してはならないのだろうか。「法律があるから」と答える人間も少なくはないだろう。世界の多くの国は法治国家であり、殺人に関する法律が定められている。無論、殺人を犯せば犯人は罰せられる。しかしながら法律とは殺人を犯した人間がどのように裁かれるのかを成文化したものであり、殺人の抑止力に過ぎない。つまり法律は殺人をしたくない理由にはなり得るが、殺人をしてはいけない理由にはなり得ない。また、法律があつたとしても殺人を犯す人間は多く存在する。すなわち、なぜ人を殺してはいけないのかという命題に対する答えを法律から見つけ出すのは不可能であるということだ。それでは殺人を犯してはならない理由はどこに存在するのだろうか。

また、自殺についても同様である。自殺とは言わば自分で自分を殺す行為である。他人を殺すわけではないのになぜ自殺はタブーとされているのだろうか。

ドイツの哲学者イマヌエル・カントはこの殺人や自殺の是非とい

う命題に対する答えを彼自身の道徳理論の中に見出した。カントは人間の本質的な部分である理性や尊厳といった側面から殺人の是非への答えを導き出した。よって今回はカントの道徳的立場からならぬ殺人を犯してはならないのかを考察をする。

一・定言命法と仮言命法

なぜ殺人を犯してはいけないのかという命題を考える前に、まずカントの道徳理論について触れたい。彼はまず自身の道徳理論を展開するに当たって、道徳的に生きるためにはどうすれば良いのかについて考えた。カントによると道徳的に生きるためには、仮言命法ではなく定言命法に従って生きることが重要であると考えた。定言命法と仮言命法とはどちらも行為における動機の一様である。例えば道に足を怪我して松葉杖を突きながら歩いている人間がいるとする。そのような人間を助ける時に行為の動機が、「助けたことで報酬をもらいたいから助ける。」もしくは、「助けることで感謝をされたい。」などという理由である場合、命法は仮言的である。命法とは理性の出す命令のことである。すなわち、「もしくならば、くをする。」といった具合にある条件付きで提示される命令のことであり、仮定があつて目的が存在している。これが仮言命法である。それに対して定言命法は、例えば先程の例と同様に困っている人間がいたとして、何か見返りを貰うために動くのではなく、単に「困っている人間がいるから助けたい。」もしくは、「助けなければならぬから助ける。」といったような動機から行われる行動となる。す

なわち仮定が存在しない「目的 \parallel 目的」で、単に「くせよ」といった絶対的かつ無条件的な動機のことを指している。カントは定言命法と仮言命法について次のように述べている。

もし行為が、単に別の何かのための手段としてのみ良いのであれば、命法は仮言的である。行為がそれ自体において良いとされ、それゆえ、それが理性と一致している意思のために必要であるなら、命法は定言的である。(二)

また、カントは定言命法に基づいた行動、すなわち善意について次のように述べる。

善意は、その結果や成果のために、善いものになるのではない。それ自体が善いものなのだ。最善の努力をもってしても何も達成しない場合でも、善意はそれ自身が全き価値を持つものとして、宝石のように光り輝く。(二)

以上二点から、カントは定言命法に基づいた行為はその結果の是非に関わらず、それ自体が善いものであり、その善意自体が価値を持つたものであると述べていることがわかる。すなわち道徳的に生きるためには、行為の動機が何かの手段のためになっている仮言命法ではなく、その行為自体が善いとされ、それ自身に価値のある定言命法に基づいた行動をしなければならぬということがわかる。

二. 定言命法の二つの定式

カントによると、定言命法には二つの定式があるという。その一つ目は「普遍的法則の定式」である。これはカントによると、同時に普遍的法則になることを意思し得るような格率に従ってのみ行動をすることである。格率とは人が従って行動する原理や原則のことを指す。すなわち自分の特定の欲望や欲求を他の人間に対して優先させてはならないということである。自分の利益や欲求、自分の状況が他の人と比べてより重要であるという理由から、自分の行動を正当化してはならないのである。つまり格率は普遍的でなくてはならない。

そして二つ目は「目的としての人間性の定式」である。カントは定言命法の根拠は特定の利益や目的の中にあつてはならないと考える。なぜならそうになると、それが目的の持ち主だけに関係するものになってしまうからである。それでは定言命法の根拠はどこに存在しているのか。それは存在そのものが絶対的な価値を持ち、それ自体の中に目的を持つもの、すなわち人間に存在しているとカントは考えた。人間は理性的な存在で、目的自体として存在しているため、誰かの意思によつて恣意的に使用されるための手段として存在するものではない。また、ここでカントは人と物の区別をしている。物はいつでも他のものと置き換えることができるため、価値が相対的である。それに対して人間は他のものとは引き換えの効かない絶対的かつ内在的な価値を持っているためである。カントは理性的な存在（人間）は絶対的、内在的な価値を有しており、尊厳を持つ

ているので、敬意と尊敬に値すると述べている。

つまり、「目的としての人間性の定式」とは全ての人間の人格にある人間性を手段としてではなく目的として扱わなければならないということである。なぜなら、理性的な存在、すなわち人間は尊厳を持つていてそれを尊重する必要があるからだ。

三. 殺人と自殺の是非について

ここまでカントの道徳理論について解説をしてきたが、次に本質であるなぜ自殺、及び殺人を犯してはならないのかという命題について考察する。まず殺人について、例えば雇われた殺し屋が標的を殺害するというケースがあるとする。この場合、殺し屋は自分の利益や目的（報酬）のために標的を手段として利用している。また無論、殺された標的の尊厳は尊重されていない。したがつてこの行為は仮言命法からくるものであり、定言命法、及びその二つの定式に違反していることになる。他のケースでも同様で、人が人を殺したときは何かしらの理由があつて、その目的を達成するための手段として殺人をするはずだ。単に「人を殺さなければいけない」といった定言命法的な動機から人を殺すことは考えられないし、道徳的に正当であるとも言えない。したがつてカントの道徳的立場からすると殺人は犯してはならない。

次に自殺についてである。自殺とは人が何かしらの苦痛を軽減するために行う物である。すなわち自分を自分の苦痛を軽減するための「手段」として用いているということだ。また、殺人のケースと

同様に人間を目的のものとして尊重することに失敗をしている。したがってこれも定言命法、及びその定式に違反している物であるということが分かる。つまりカントの立場からすると自殺も道徳的に間違った行為だということが分かる。

結論として、カントの道徳理論によると自殺は人間に普遍的に備わる理性の能力、すなわち尊厳を自身で侵害しているし、殺人は誰かの命を奪うことで尊厳を侵害しているということになる。すなわち道徳的には殺人も自殺も禁じられるべきなのだ。

四・結論

結論として、カントの道徳的理論に基づく殺人や自殺はしてはならない。これは彼が道徳的に生きるためには定言命法に従って行動すべきであるからと考えており、その定言命法には根拠として二つの定式が存在していたからだ。それらの定式よると、全ての人間の人格にある人間性を手段としてではなく目的として扱わなければならない、その理由として理性的な存在、すなわち人間は尊厳を持っていてそれを尊重する必要があるからであるということが挙げられる。この定式から、自殺は人間に普遍的に備わる理性の能力すなわち尊厳を自身で侵害しているし、殺人は誰かの命を奪うことで尊厳を侵害しているということになるため、両者共に道徳的にしてはいけない行為なのである。

五・引用と参考

- (一) マイケル・サンデル (二〇一二) 『ハーバード白熱教室講義録 十東大特別授業』(小林正弥・杉田晶子 訳) 早川書房 p. 254
- (二) マイケル・サンデル (二〇一二) 『ハーバード白熱教室講義録 十東大特別授業』(小林正弥・杉田晶子 訳) 早川書房 pp. 236-237
- マイケル・サンデル (二〇一二) 『ハーバード白熱教室講義録 十東大特別授業』(小林正弥・杉田晶子 訳) 早川書房

ETHICAL DILEMMA LYING TO A MURDERER IMMANUEL KANT

この一年を通じて

東京工業大学 工学院システム制御学科 卒
森本 龍

今年も舎誌の季節となった。大学二年生ごろまでは、舎誌を書くのは、その場しのぎで書くみたいな感覚であったが、大学三年生以降は人に見られているため、まともなものを書かなければという感覚になった。実際に昨年や一昨年は、舎誌が刊行されると読んで、集會室にいつも集まる舎生と意見を交換したりした。普段話さない

舎生のやっていることや、興味のあること、学んでいることがわかるので舎誌を読むのは面白い。

今年の舎誌で書くこうとしていることにもつながるのだが、今年は自分が最年長となったため、変な文章は書けないという妙なプレッシャーがある。舎誌が刊行された後に、読んで、舎生同士で話すのを楽しみにして書いていきたいと思う。

最年長になったと述べたが、今年でこの岩陽学舎は五年目となる。学部は東京工業大（東工大）の工学院システム制御系を卒業した。今年から大学院一年生の代であるが、恥ずかしながら、昨年度大学院試験に失敗してしまった影響で、現在学生という身分ではなくなってしまった。舎誌を書いている今現在では、二回目の大学院試験を終えて結果を待っている状況である。大学院試験を失敗して、一年間学生ではない身分で過ごすという経験は、なかなか珍しいケースのように感じるので、今年の舎誌ではこの経験を中心に書いていきたいと思う。

昨年度の夏に、通っていた東工大の大学院試験に落ちた。今考えると、それほどショックはないが当時はかなりのショックを感じていた覚えがある。これは落ちたことに対するショックもあるが、これからどうしようという未来への不安が大きかったように思える。東京工業大学の大学院試験は内部からの進学であれば、合格率は八〇〜九〇パーセントを超えるといわれている（データには基づいていない）。この情報に加えて、自分の成績も悪くなかったことから、自分は落ちることはないと思っていた。そのため、いざ落ちたと

なった時には、就職活動もしていなかったし、落ちた時のための他の大学院試験も受けていないので、本当にどうしようかと悩んだ。

落ちたときの選択肢として、すぐ就職活動を始める、または冬の大学院試験を受けるが自分の中には残されていた。両方とも自分の中では中途半端な選択肢であったように思える。就職活動については、他の人たちは一年前ぐらいから時間をかけて行なっていることに加えて、主要な大企業の就活に関する募集は終了していた。また大学院試験については、東工大は冬院試を行なっておらず、東工大と同等以上で冬院試を行っていると東大の情報系ぐらいしか選択肢がなく、分野も違うので勉強時間が足りるかが怪しかった。

結局自分はそこで、就活は中途半端すぎるということで、東大の情報系の大学院試験を受けることを選んだ。

この選択によって、自分はその年から一年間続く受験期に入ることになる。これは、結局東大の冬院試は落ちてしまい、そこから次の夏、つまり二〇二三年の夏の東大、東工大の院試を受けるまで勉強することになるからである。一年と少しの受験期をようやく最近終えたので、この期間に感じたことを書いていきたい。

最初に思ったのは、まさか自分に二度目の受験期が来るとは思ってもいなかった。大学生同士で、高校時代の受験期は大変だったよねという話をすると盛り上がる。これについて自分の場合は、実際に高校の受験期は頑張ったし、大学生活で自分が頑張っているかに関わらず、昔努力して頑張っていた自分の姿とそれで成功した思いは、話したり思い出したりするととても気持ちがいいからである。

この大学受験期頑張っていた自分と、今回の大学院受験期の自分を比べるとなかなか現実を突きつけられるものがあつたし、目を逸らしたくなるのがたくさんあつた。

先ほども言ったが、大学受験期の頑張りには自分の誇りとなつていると同時に、自分はやればできるという謎の自信につながつていた。このやればできるというのは、才能の話ではなく、やらなければならぬタスクが目の前に来れば、毎日努力することができるといふことである。大学受験期と違って、大学院受験期は、一人暮らしで生活に関わることをしながら勉強する必要がある、またお酒やその他の娯楽といった、高校生の時期と違って、いろんなことを知つた上で毎日机に向かうというのは、かなり辛かつた。大学受験期も、今回の大学院受験期も両方とも、今勉強した方が将来的には、自分のためになるということでは自分で納得していても、高校の時の大学受験期には毎日苦にならず向かうことができていた机が、行きたくないと感じることが多かつた。

今勉強した方が将来的には、自分のためになると、私が思つていふことを以前、学舎の後輩に話したことがある。その時私は、有名な実験も踏まえて話した。その実験とは以下のようなものである。子供の目の前に飴を置き、「二五分後に戻ってくる。それまで飴を食べるのを我慢していれば、二つ目の飴をあげるよ」と伝えて、子供を密室に置いてその場を離れる、というものである。実験に際して、我慢して食べない子や、我慢するけど途中で食べる子など様々は反応がみられる。実験結果としては、ここで飴を我慢できる子供の方

が、将来的にも成功する人が多いというデータが出ているらしいが、ここで私が触れたいことは、今我慢すれば、未来の自分が得をするという状況において、どのような行動をとるかについてである。

学舎の後輩とは、この話が大学受験期に勉強するかどうかも同等の話なのか、ということを議論した。後輩には、実験では必ず一五分後に二つ目の飴という未来に自分が得をするということが確定しているが、受験ではそれが定かではないので、受験と飴の実験の話は違うのではないかと言われた。確かに後輩の主張も納得できる。受験期に勉強に打ち込むということは、大事な時間を勉強で費やすことになり、周りの同年代の人達がしている遊びなどができなくなり、また合格できるかも定まっておらず、そもそも勉強していい大学に行くことが本当に自分にとって得となるのかは定かではない。

後輩が言ったことや、飴の実験を踏まえて自分が今回の、受験期で感じたことは、先が見えない、つまり実が結ばれるかわからない状況でも、何かに向けて努力するのは、自分の財産になるといふことである。先ほどの飴の実験との対比でいえば、努力できたという事実が未来の自分にとって得となる。飴の実験でいえば、未来のために飴を我慢できたという事実である。今回の受験では、英語の外部試験（TOEIC、TOEFL）の点をとることと、試験本番で専門科目の点をとることの二つの山があつた。本番が近くなれば、緊張するし、落ちたらどうしようという気持ちが大きくなる。しかし、これらを終えて今では、結果はまだわからないが、自分は努力してきた、頑張れたという現実や、試験に関して新しく学べたこと

や、学部の四年間で学んだことを振り返ることができたなどと得られるものがたくさんあった。なにより、大学受験以降にこんな気持ちになるのが初めてであったし、落ちたら就職する予定であったため、大学受験よりも今後の自分の進路にかかわることから、よりプレッシャーがあった。

よく考えると、高校時代までは定期テストで順位がでたり、部活があつたりと、自分を追い込む必要があることが多かったのに比べ、大学生活ではそれが少なかったように思える。大学のテストは、勉強するというより、単位をとる、つまり単位をおとさないようにすることに重みを置いている学生が多いように思える。また授業については、大学によって違うが、大抵の場合は、数回欠席しても単位を取ることが可能である。また自分を始め、岩陽学舎の舎生は一人暮らしであり、個人によるとは思いますが、一人暮らしの大学生がさぼったときに注意してくれる人はいない。

ありきたりなことを言ってしまうが、いつてしまえば自分にくらでも甘くすることができる大学生活で、何か一つでも努力できることをみつけ、それについて頑張つてほしいということの後輩には伝えたい。また同時にこれを読んでくださっている学舎にかかわる方々には、若輩者の私が言うのは大変恐縮ですが、自分が今の環境において、昔の自分と無意識に変わってしまったのではないか、また頑張れているかなどを考えてみる機会になれば幸いである。

今年も無事に舎誌を書き終えることができた。実は、舎誌の後半を書いているときに、大学院試験の結果がでて、無事合格すること

ができた。岩陽学舎には現在、学生の身分でなくなつてしまつても住ませていただいていることを、この場をお借りして感謝いたします。また受験期はほぼ毎日、学舎の集会所で勉強していたのだが、そこで一緒に集まつて勉強してくれた後輩や、両親を始め、支えてくださった皆さんに感謝申し上げます。

お酒についての知識を得よう

東京工業大学 情報理工学院情報工学系 四年

吉谷 碧海

大学生になつてから起きる一番の大きな変化は二十歳を迎え、お酒を飲むことができるようになるということである。お酒にはメリットデメリットがありコミュニケーションのツールとしても優れているものであるが、飲み過ぎると心身に大きな影響を与える。この文章を読んでもくれる人にはこれから二十歳になるという人が多いだろう。お酒とよりよく付き合っていくためにお酒についての知識を身につけていただきたい。

まず、お酒を飲むと何が起るのだろうか。顔が赤くなつたり、気分が良くなつたり、まっすぐ歩けなくなつたり、頭が痛くなつたり、

り、吐き気がしたり、飲んでいた時のことを覚えていなかったり、次の日二日酔いになったりなどこのように列挙してみるとお酒を飲むと心身に多くの変化をもたらす。アルコールを摂取することによって体の中で何が起きているのだろうか。

お酒を飲むと最初に、だんだんと気分が良くなるのを感じるだろう。これが酔いの始まりである。しかしなぜアルコールを摂取すると良い気分になったり楽しくなったりするのだろうかと考えたことがなかった。その理由は、アルコールを摂取して最初のアルコールの血中濃度が比較的低い状態では、脳にある理性をつかさどる大脳皮層までアルコールがまわりその活動を低下させるからである。特に前頭前野を麻痺させており、前頭前野によって抑制されていた本能や感情をつかさどる脳が相対的に活発になり抑制から解放されて本来の活動を行うようになるからである。つまり、脳が麻痺して、楽しいと思つたことを素直に楽しいと感じ、表現しやすくなつていくということだ。またこれと同時に感情や判断を抑制する能力も低下している。その結果、言動の抑制が小さくなり、よく喋る、よく動くということが起きる。

しかし、さらにアルコールの血中濃度が高くなると小脳にまでアルコールが及び、身体機能に影響が始めて足元がふらつく。真っ直ぐ歩こうとして歩けない場合は少し飲み過ぎている状態である。

さらに飲みすぎるとそこからの記憶がなくなつて次の日二日酔いになる。二日酔いになると頭痛や吐き気、だるさ、寒気、げり、喉

の渴きなど様々な負の症状が体に現れる。なお、二日酔いになる原因は詳しくはわかっていない。お酒を飲んでいる時にあれほど元気に行動し続けることができるのは次の日の体力を根こそぎ持つていつているからだとは私と考えている。

なお、顔が赤くなつたり、頭痛、吐き気を催したりするのはアルコールが分解されることにより生じるアセトアルデヒドが原因であり、アルコールが直接的な原因ではない。すなわち、お酒を飲むと顔がすぐ赤くなる人はアルコールの分解が早く、先に述べたような酔っ払い状態になりにくい。ただし、アセトアルデヒドの分解が早いかおそいかは人によって変わるものであり、それが遅いと吐き気を催す。

お酒を飲みすぎると次の日記憶が全くなつていたり、断片的に記憶がなくなつたりする。これは記憶がなくなつていくというわけではなく、脳の中にある記憶を形成するための海馬という部位にアルコールが作用し、機能が低下し出来事を記憶できない状況になつているからである。これが影響して、自分がしゃべつたことを覚えてなくて何回も話してしまつたり、お金を払つたことを忘れてしまつたりしている。その時は理性的な行動をとつていてものちにはそれを記憶できていないためこのような不思議なことが起こるのである。

記憶がなくなつても家に帰ることができるのはなぜだろう

か。最寄り駅から自分の家までそれほど道順を意識していなくてもいつの間にか家に着いている。スマホを触りながらもさっきの交差点を右折できる。このような経験はあるのではないのだろうか。実は記憶がなくなった時に家に帰ることができるのはこれと同じ原理である。これを「脳ナビ」と呼び、人間の脳の中に地図があり酔って記憶を作ることができない状態なのに、これまでの経験としての帰宅経路を読み出してそれに合わせて酔った自分を家に連れて帰ってくれるのである。過去の記憶から作られる「ナビゲーションニューロン」という神経細胞が、通い慣れた風景、つまり視覚情報に対応して「右に曲がれ」といった指示を体に自動的に出してくれるのである。これによって、自分の見慣れている何度も通ったことのある道なら記憶がなくなっている状況でも家に帰れてしまう。すなわち慣れていない地で記憶がなくなってしまう場合なすすべはない。記憶がなくなってもタクシーを捕まえて自分の家の住所をいえるようにしよう。

血中濃度に対応しないような著しい興奮や幻覚などの精神症状を伴うような酔い方を異常酩酊と呼ぶ。異常酩酊には複雑酩酊と病的酩酊に分けられる。そのうち複雑酩酊は気分の変化が激しくなり、些細なことがきっかけで不機嫌になったり著しい興奮が出現したりする。これがいわゆる酒癖が悪いと呼ばれる状態である。平常時では抑えられている脳機能の衝動性や未熟性がアルコールによって表にでた状態だと考えられている。重大な情動犯罪や突発的な自殺に

つながることがあり、酩酊時の記憶は断片的であるが基本的な状況把握力は保持されていることが多い。もうひとつの病的酩酊では幻覚が生じることがや見当識が失われていることがあり、周囲の状況を認識することはほとんど不可能になっている。周囲から見ると理解不能な言動を繰り返し、幻覚、妄想や状況の根本的な誤認から重大な犯罪に及ぶことがある。病的酩酊では翌日、その日の出来事を覚えていないことが多い。このように、記憶がなくなりやすい人は異常行動を起こし重大な犯罪を犯す危険性がある。

異常酩酊が起こる原因として遺伝的な素因・アルコール依存症・脳挫傷や脳梗塞などの脳器質性障害・極度の疲労や衰弱状態などが考えられており、これが酔いの程度が血中濃度に対応しない理由である。

アルコールを大量に摂取すると吐き気を催し吐いてしまう場合がある。肝臓がアルコール摂取でできる有害物質（アセトアルデヒド）を分解しきれず、血中のアセトアルデヒド濃度が高まることでアルコールを体の外に出そうとして吐いてしまうのである。しかし、吐くという行為は体に大きな悪影響をもたらしてしまう。嘔吐の刺激で胃や食道に負担がかかったり、粘膜が傷ついたりして、出血をしてしまう場合がある。吐瀉物やアルコールをもう一度食道や口内を通すのは体に悪い影響を与える。

これまでアルコール摂取時の体への影響、原因を述べてきた。こ

れを踏まえてどのように飲むと良いのだろうか。心がけるべきは短時間に大量のアルコールを摂取すべきではないということである。一気に血中濃度を上げてしまうとアルコールの消失が追いつかなくなり、簡単には血中濃度は下がらなくなり、泥酔状態になる。また飲むペースを遅くするという他に度数の低いアルコールを摂取することを心がけたり、アルコール以外の水や食べ物も摂取したりすることが大事である。また、運動後などの疲労状態、寝不足の状態でお酒を飲むことも先述の酩酊状態に陥りやすいので注意が必要である。

結論として、アルコールの分解速度とアセトアルデヒドの分解速度は人によって違うので体への影響は人それぞれである。お酒の強い人弱い人が存在するがそれぞれの分解速度を超える大量のアルコールを摂取すればどんな人でも泥酔状態に陥るだろう。自分がどれほどのペースでどれほどのお酒を飲むとどのような症状があるのかを理解してお酒と付き合っていくことが大事である。

おいしいご飯屋さんについて

目白大学 人間学部人間福祉学科 三年

大塚 はな

東京に来て三年目ということで、今まで行った中で美味しいご飯屋をいくつか紹介したいと思います。

まずは、ごはんや一芯です。このお店は豚の角煮がとても美味しいです。角煮は箸で切れるくらい柔らかくて口に入れた瞬間にトロトロと溶けていきます。デザートにはかぼちやのクリームブリュレを食べました。香ばしいカラメルとかぼちやのほのかな甘さが相性抜群です。店内は落ち着いた雰囲気でも過ごしやすいです。東京の他に京都、大阪にもお店があるのでぜひ行ってみてください。

次に、BubbleTeaChill Gohongiというカフェです。このお店は東京に遊びに来てくれた友達と一緒にオシャレなカフェに行こう！となって色々調べて行きました。白とグレーで統一された店内は無機質な感じがとってもかっこいいです。店主厳選のスペシャルコーヒータンブとフオークで食べる「オーブンサンドイッチ」がおすすめです。私はりんごとシナモンのオーブンサンドイッチをたべました。そのほかにもサーモンとチーズ、エビとアボカドなど多種多様なオーブンサンドイッチがあります。とにかく店内がおしゃれでインスタ映えするのでインスタに命をかけている人は行ってみてください。大森から行こうとすると三回ほど乗り換えをしなければならず少し不便な場所にあるお店ですが行く価値は十分にあるので

ひ、訪れてみてください。

次に、6th by ORIENTAL HOTEL というお店です。日本最古のホテル・神戸 ORIENTAL HOTEL に由縁する 6th by ORIENTAL HOTEL。銀座・有楽町エリアで他にはない、異国情緒な雰囲気の中で、肉寿司やパスタ、ジェラートなどを楽しむことができます。丸の内付近にあるお店なので、イルミネーションを楽しんだ後、6th by ORIENTAL HOTEL の料理を楽しむのもおすすめです。クリスマスの時期に行ってみてください。

次に、Mercer brunch GINZA Terrace というお店です。昼は焼き立てフレンチトーストとボリウム満点の料理がセットのブランチ、夜は多国籍な料理を“MERCER STYLE”に突き詰めた NY イタリアンが人気なお店です。このお店はフレンチトーストが大人気です。私はチキンミートボールのチリコンカン アボカドディップとトマトサルサを食べました。チリコンカンがチキンミートボールと相性バツチリで美味しかったです。また、お店一押し of フレンチトーストもふわふわで味が染みていて美味しかったです。おすすめです。ぜひ皆さんも行ってみてください！（クリスマスマスの時期に行っても屋外用ヒーターがあるので暖かく過ごせます！）このお店は銀座にあったのでとても緊張しましたが、美味しいご飯を食べることができてとても良い思い出になりました。

次におすすめするのは、天王洲アイル駅の近くにある T.V. HARBOR というお店です。倉庫をリノベーションした店内と、水辺のテラス席がとても目を引くお店で、洗練された空間でゆっく

りダイナーを楽しむ時にぴったりです。窓側の席は、夕暮れや夜景眺めながらダイナーを堪能することができます。T.V. HARBOR の最大の魅力は、併設された醸造所（ブルワリー）で出来立てのクラフトビールを味わえることです。ブルワリーはレストランとガラス一枚隔てただけの場所にありす。出来立てビールを堪能できるのでビール好きな方にはたまらないと思います！また料理もビールに合うアメリカンスタイルの料理が勢揃いす。トモオリジナルミートコンボプレート（ビアチキン、スパイシーハンガーステーキ、バーベキューリブ）、マッシュポテトとソテーベジタブルを、食べました。アメリカンで、ボリューミーなのでお腹もすぐにいっぱいになります！しかし、人気のあるお店なので予約して行ってみてくださいね！

次におすすめするのは、浅草にあるカツ吉というお店です。三十種類以上のとんかつのメニューがあります。味噌とんかつ、しそとんかつ、チーズとんかつなど不動の人気メニューから、魚介の旨味を活かした牡蠣トンカツ、ホタテとんかつ、赤貝とんかつ、辛い物好きの方にはわさびとんかつ、マスタードとんかつなどがあります！また、納豆とんかつやチョコとんかつなど面白い味のとんかつもあります。ぜひいろいろな種類のとんかつを試してみてください。

次に、Cafe Le Pomier というカフェを紹介します。ここは大学の友達の誕生日を祝うために色々調べて行ったお店です。アボカドと低温スチームチキン黒オリブソースというメニューがおすすめ

です。大きめのバケットの上にチキンとアボカドがのっています。サラダとキャロットラペも一緒に盛り付けられていて、野菜たっぷりです！アボカドはあまり好きではなかったのですがここで改めてアボカドを食べると美味しい！と感じました。また行きたいです。また、素敵で可愛い誕生日プレートも用意してもらるので友達誕生日を祝うお店にびったりだと思います。

最後に山口県で好きなご飯屋さんについて紹介します。まずは岩国市にある山賊です。家族と行った時は、山賊むすびと山賊焼しか食べたことないのでまた行ったら、違うものも食べてみたいです。あと、焼鳥屋の大吉も好きです。この店は山口県にしかないのかなと思っていたのですが調べてみると大森や蒲田にもあったのでまた、行ってみたいです。皆さんの東京、または山口県でおすすめるのご飯屋さんも教えてください。

建築観光の記録

東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 三年

北村 俊樹

私は実家に帰省して一段落した状態でこの舎誌を書いている。暑いことには変わりないが建物密度の関係もあるのか東京よりも過ご

しやすいと感じる。大学はつい四日ほど前に試験が終わり、夏季休暇に入った。後学期は研究室体験や文系の卒論が控えているため前学期以上に忙しくなることが予想される。更に来年は研究室での生活や院試もあるので余裕をもって過ごせる休暇は今回が最後になるのではないかと思っている。とはいえ、院試の準備や勉強、建築士の勉強などやるべきことは多い。前年度までの資料や過去問はダウンロードし終えたが、どのようなスケジュールを進めていくかを考えている段階である。十月頭には後学期が始まるので程よく無理のない予定を組みたいと考える。この期間でも建築観光をしていきたいと考えているが、危険を伴う暑さや台風通過による荒天が予想されており、なかなか思い通りにいかないかもしれない。しかし、帰省中に広島で平和記念資料館や基町アパートなどを観光しようと大学の友達と計画しており、最後に野球観戦をしようと思っていたが夏休みかつお盆休みであることからチケットが取れずスタジアムの周囲を散歩するだけで終わりそうである。ところで、前回の舎誌を書いたところから本格的な夏になる前に一人あるいは大学の友達と一緒に建築観光をいくつもしてきた。舎生日記でも書いたがどこに行き何を感じたのかを文章にしようと思ひ、今回の舎誌に至った。時系列で一つずつ紹介していきたいと思う。

まず、後学期前半の課題が落ち着いたタイミングで上野駅・上野公園周辺の建築物群を練り歩いてみた。文化の日であったため、ル・コルビュジェが手掛けた国立西洋美術館の常設展には無料で入ることができた。他にも前川國男が設計した東京文化会館や東京都

美術館、片山東熊が設計した東京都国立博物館、安藤忠雄が設計した国際子ども図書館など枚挙にいとまがない。その中でも僕は国立西洋美術館について記したい。直方体で構成した扁平なファサードはコンクリートの荒々しさを示すコルビュジエらしい建築であるといえる。私のお気に入りの空間はチケットを購入して建物内部に入り展示スペースに向かうまでのもぎりのスペースである。チケットをスタッフの方に見せたのちに展示室に向かうのだが、天井が高くとつてあり、薄暗い空間に天窓から光が差し込むという神秘的な空間となっている。スロープで徐々に明るいほうに近づくという機能的役割を空間がしっかりと果たしているといえる。この建物は大学の課題で少し取り上げたことから興味を持ち、隅々まで観察することができたように思う。次は企画展にも訪れ展示室内部の建築的特徴を自分なりの視点で見出してみたいと思う。

次は、大学が春休みに入り少し落ち着いたときに訪れた東京晴海にあるオリンピック選手村跡地である。当時はまだ絶賛建設中だったが現在は竣工を十月に控えている晴海フラッグパークビレッジという集合住宅が立ち並び小中学校も含めた都市開発が進んでいる。沿岸には晴海ふ頭公園があり、レインボーブリッジやお台場を望むことができる。集合住宅群を見て気づいたことは配色である。階層や建築部位によって仕上げの色を使い分けることで統一感ではなくそれぞれの存在感が引き立つような工夫であるように感じた。公園を訪れた際は強風が吹いており都市の中でも自然を感じられる環境であった。これもまた竣工後に再訪して雰囲気の違いを体感してみ

たいと思う。

さらに、そこから二日後には青山にある岡本太郎記念館、丹下健三による国立代々木競技場、槇文彦によるスパイラル、隈研吾による根津美術館を大学の友達と一緒に訪れた。岡本太郎記念館は限られた敷地に吹き抜けを有した二階建ての建物に展示物が至るところに張り巡らされている。また、植物にも囲まれており落ち着いた雰囲気の中で作品を鑑賞できる。代々木体育館については圧倒的なスケールの大きさと吊り構造を間近に見ることができ、これを高度経済成長期に実現できた日本の技術に改めて感動を覚えた。スパイラルは当初予定にはなかったが、移動経路にあったことで急遽立ち寄ることになった。特徴は何といっても大きな円形のホール部分と外側に張り巡らされたスロープである。当時は大学の卒業制作展が行われており、幅広い用途に活用できるというのもこの建築の魅力である。通り沿いにはガラス張りのファサードにスキップフロア形式の階段が配置されており、空間の変化を敏感に感じ取ることができ。根津美術館は木を天井や内壁に効果的に使用し、自然光と人工照明の使い分けが空間によりできていると感じる。一日で四つの建築を巡ったこともあって充実度あふれる時間になったと思う。

その一か月後には同じメンバーで千葉のホキ美術館と現在のは道の駅となっている保田小学校を訪れた。ホキ美術館はダイナミックな片持ちの構造体が目を引き、住宅街の中に異質な存在感を放っていた。奥行きが長く展示物同士の間隔が広くとつてあるのも美術館の中では珍しいのではないかと思う。保田小学校はテレビでも取り上

げられている有名な観光スポットで小学校校舎を改修して道の駅となっている。宿泊施設としても運営されており、教室が宿泊用の部屋になっている。二階のテラスには実際に小学校で使われていた机やイスなどが置かれており、とても懐かしい気持ちになった。建築的には当時の小学校の雰囲気を残しつつ、より現代的な建物にリノベされていることを感じることができた。隣には幼稚園がリニューアルして竣工する予定であり、地域の活性化が期待されていることからまた訪れてみたいスポットの一つである。

四月に入ってから黒川紀章の設計した国立新美術館、丹下健三の東京カテドラル聖マリア大聖堂、目黒にある東京庭園美術館を訪れた。国立新美術館は去年の図書館設計課題で平面形状を参考にした経験があり、実際の迫力を肌で感じることができた。ガラスと鉄で構成された曲面をなすファサードとコンクリートで構成されたトイレスペースは対比もさることながらお互いが共存しあっているなかなかない例だと感じた。東京カテドラル聖マリア大聖堂は非対称の屋根が特徴である。礼拝堂の座席に座ってしばらく過ごしてみた。静けさの中に広がる大空間はまさに圧巻であった。東京庭園美術館は広大な敷地の中に池や森林などの植栽が配置されその中心に美術館があるという構成である。西洋の文化が色濃く残るような設えもありタイムスリップしたような感覚になった。

大学生活に余裕が出てきた六月には長野の軽井沢まで足を延ばしてアントニン・レモンド設計の聖パウロカトリック教会や京都駅などを手掛けた原広司設計の田崎美術館など時間の限り多くの建築物

を見て回った。教会はレーモンドの作品のトレース課題を去年していたこともあつて興味を持った。同じ部材でも寸法が微妙に違った木材を使用したり、軸組構法をレーモンドなりに解釈した構成になっていたりとかだわりが多くみられる建築であった。田崎美術館は中庭を展示室で囲んだような構成で自然光の入れ方や屋根形状の変化に工夫がみられた。美術館の良さは規模によらないことを改めて確認できた。

七月には川崎にある日本民家園を訪れた。日本全国にあつた有名な民家が集まったこの場所では合掌造りや茅葺きなどの日本の伝統的な形式を一度に見ることが出来る。私が気になったのは屋根勾配である。雪を地面に落とすために採用された急勾配のものもあり、地域によって違いが明確に出るものだった。この時はすでに本格的な夏に近づいており歩いている間にも汗がにじみ出るほどだった。

総じて感じたのは観光を終えたその日は満足感であふれるのだが、時間が経過するとまた巡ってみたいという感情が芽生えるのである。同じ建築家のほかの作品であったり、建築用途の違いであったり幅はどんどん広がっていくのである。これからもこの好奇心を忘れずに持ち続け人生を謳歌していきたいと願うばかりである。

飲み屋と再開発

青山学院大学 総合文化政策学部総合文化政策学科 三年

高石 光輝

少し前までは、私は今年も優雅に夏休みを過ごす予定だった。というより優雅に過ごしていたはずなのだが、どうして私は今頭を抱えているのだろう。理由は簡単だ。恐れていた事態が起こってしまったからだ。恐れていた事態とは何か。そう、今年も舎誌の季節がやってきてしまったのだ。意を決しPCを開いたのはいいものの、全くもってテーマが思いつかない。私にとって舎誌の執筆はとうとう三度目となったが、思い返せば毎年同じ苦しみを味わってきたように思える。自分の学ばなさにはほとほと呆れかえってしまった。ただ、ここでうだうだ言っても仕方がない。学舎での生活も三年目。いい加減腹をくくり、PCに向かうしかないだろう。ということでは今回は、私が最近思っていることについて書いていくことにする。

突然だが、皆さん、居酒屋はお好きだろうか。もちろん個人差はあると思うが、お酒を飲むかどうかは別として居酒屋に対し悪い印象を持つ人々にはあまりいいものではないだろうか。少なくとも私の周りにはあまりいいように思える。かくいう私はいわゆる「居酒屋めぐり」が好きで、日々新しい店を開拓したいと思っている。特に私は大学が近くにあることもあり渋谷を訪れることが多い。御周知のとおり渋谷は都内有数の歓楽街であることから居酒屋の数も多

く、私もしばしばSNSで気になる店を見つけては友人たちと訪れているが、それでもまだ行ったことがない店がほとんどである。そんな渋谷だが、最近再開発が盛んに行われていることはご存じだろうか。直近では、文化村通りに八月二十四日に地下一階、地上二八階建ての複合施設「道玄坂通」（地図：①）がオープンしたという。詳細は省くが、上層階には外資系ホテルも開業するそうで、注目を集める施設であることは間違いない。また、そんな「道玄坂通」の向かい、東急百貨店跡地では二〇二七年度の竣工を目指し「渋谷アッパー・ウエスト・プロジェクト」が進行している。多数の居酒屋がひしめく道玄坂地区でも、二

〇二六年頃の竣工を目指し再開発が進められている（地図：②）。この他にも、現在渋谷地区ではあちこちで再開発が行われているが、この動きは渋谷に限った話ではない。渋谷のお隣、原宿でも来春に商業施設がオープンする予定であるし、明治神宮外苑の再開発も何かと話題になっている。

(<https://best-tokyo.com/office/article/redevelopment-shibuya> から引用)



このように、現在都内のいたるところで再開発が行われていることはご理解いただけたと思う。ただ、少し考えてしまう。何でもかんでも新しく造り替えてしまってもいいのだろうか。先に居酒屋の話をしたが、居酒屋といっても、全てがチェーン店のように大きな店ではない。狭くて、席数も少ないお店もいっぱいある。そしてそういう店の多くは古い建物に入っていたりする。ここからは個人的な感想になってしまいが、そういった店にはどことなく趣深さがあるように感じる。また、そういった店の多くは密集していて、その地域だけ独特の空気があったりもする。皆さんも一度くらい感じたことがあるのではないだろうか。ガード下や、いわゆる「横丁」といったところを訪れた時に感じる空気を。その空気を醸し出すのは何なのか明確には分からないが、少なくとも新しい建物では感じることでできない感覚のように思える。そういった言葉で言い表すことのできない感覚は、再開発によって失われてしまうのではないかと、どうしても思ってしまう。ひとたび再開発の地区に指定されてしまえば、店は立ち退きを迫られ、良くて移転、悪くすれば廃業に追い込まれてしまう。古い居酒屋が密集する地域であればなおさらそのリスクは高くなる。実際に道玄坂地区の再開発は小さな居酒屋が多く存在する地域のすぐそばで行われており、現在も古いビルの解体作業が行われている。こうなってしまうと、長い年月をかけた作り上げられた雰囲気を取り戻すことは非常に難しいだろう。ここまで居酒屋を例に挙げて話を進めてきたが、全くもって居酒屋に限った話ではない。先に軽く触れた明治神宮外苑の再開発。この事

業では、多くの樹木が伐採される計画が判明したということもあり、多くの反対意見が寄せられている。実際に、音楽家の坂本龍一氏や作家の村上春樹氏など多くの著名人が反対の意を表明している。村上春樹氏は自身のラジオで「一度壊したものは、もう元には戻りません」と語っている。私は、この一言がまさしくすべてを表しているのではないかと感じた。新しいものを作ることには簡単だ。昔よりもつと安全で、快適なものを作ることができる。これは疑いようのない事実である。しかし、長い年月をかけた作り上げられた空気感、雰囲気といった目に見えないものは、そう簡単には替えが効かない。まさしく、「元には戻らない」のだ。

かといって、全てそっくりそのまま残し続けることがいいのかというと、それもまた難しい。全てを「そのままの」状態で残し続けることは不可能に近い。形あるものはいつか壊れる。万物にとつて、経年劣化は避けられない。まして、古いものではなおさらである。実際、いわゆる「横丁」として有名な新宿のゴールデン街では、過去に数回火災に見舞われていて、二〇一六年の火災では、四棟の六店舗が燃えたという。また、地震などの自然災害に見舞われた場合、古い建物の方が大きなダメージを受けやすいことも明らかである。そういった事態を防ぐには、いつそ壊して新しい建物へと造り替えてしまうことが効果的なのだろうか。

と、こう書いてしまうと「じゃあどうすればいいんだよ」と思っ

【5分でわかる】神宮外苑の再開発、何が問題になっているの？知っておきたい5つのこと／ハフポストNEWS (huffpost.com)

てしまっただろう。私は、結局のところ対話が最も大切なのではないかと思う。古い建物を残すことはもちろん大切であるが、それと同じぐらい街がさらに魅力ある街として未来へ発展していくために、新たな建物へとアップデートしていく再開発も重要なのだ。そのためには、再開発を進める行政・企業とその街で暮らす我々市民が自らの意見を主張し、互いにとって最善の策を見つめるため努力することが必要なのではないか。十分な説明をせず、またその説明を十分理解していない状態で事業を進めてしまうと、もめることは必然だ。しかし、十分に議論が尽くされた後であれば、円滑に事業を進めることができる。綺麗事だと言われるかもしれないが、結局はそこに尽きるのではないか。また、そのためには、街に生きる一人一人が自らの頭で考える必要がある。実際に暮らす者にしか感じることでできないモノが確実にあるはずだ。それは街が発展していく上で確実に必要になると、私は考える。自らが暮らす街に愛着を持って、なんて言うつもりは毛頭ないが、ただ暮らすだけではなく少しその街の空気や「らしさ」といった部分に意識を向けてみるのも、悪くはないのではないだろうか。

私が『バービー』について知っている二、三の事柄

早稲田大学 文学部 三年

高部 吉之介

先日、川崎のシネコンで上映していた『バービー』を学舎の同期と二人で観賞してきた。今年の舎誌で特に書くものも決まっていなかったのですが、今回は批評とはいわないまでも、この作品に対する長めの感想を寄せさせていただこうと思う。本来ならば映画批評を書く際には、何度も作品を見返して詳細な記述をするべきではあるが、今回は自分にそこまでの時間的余裕がなかったため、一回のみの観賞でお許し願いたい。記憶が定かでないが確か蓮實重彦か誰かが、昔の映画体験は基本的に劇場での一度のみであったため、当時の批評も曖昧な記憶に基づいたものであったという意のことを書いていたと思う。であるので、今回の私の舎誌に怪しい部分があっても、同様になんとか多めにみてもらいたいと、恥ずかしながらも付言しておく。

冒頭、『2001年宇宙の旅』の引用から映画は始まる。『2001年宇宙の旅』では猿がモノリスに触れ、人類が知恵を得た瞬間として描写されるが、『バービー』では猿が女兒に、モノリスが巨大な大人の女性（バービー）に置き換えられている。そして、猿が手にしていた骨の代わりに、女兒たちは赤ちゃん人形を握り締め、玩具に叩きつけ粉砕する。ここで主張されているものは明らかだ。このシーンは、それまで生まれた時から女性に押し付けられてきた、

育児を行う「母」という従属的で規範的な役割に対し、女兒が反旗を翻した瞬間である。「バービー」という大人の女性に触れることで、女兒たちは一人一人の人間として、「なりたい存在」への想像力を得たのである。ここで重要なのは「母」になることを否定することではない。「母」になってもならなくてもよい、何になってもいい、ということがバービーの掲げる“*You Can Be Anything*”なのである。『*The Great Gatsby*』においてジェイムズ・ギャッツがジェイ・ギャッツビーを、そしてロバート・アレン・ジマーマンがボブ・ディランを作り出すことで、彼らは自分ではない理想の何かになろうとした。同様に、様々な子供たちの理想を背負うものとして「バービー」が存在するのである。その意味では、これはある種伝統的なアメリカ的主题でもあるだろう。

現在の支配的な規範の拒否という点では、バービーの衣装に注目することも有効である。ヒールを脱いでも初めは地につけなかった踵を、物語の最後には地面におろすことができた。ヒールからの解放とは、つまり男性から眼差される女性という存在からの解放という、明快なメタファーである。また、全身ピンクの洋服に身を包んでいたバービーだが、映画の終盤にはブルーの洋服を着ている。ピンク＝女性的、ブルー＝男性的といったジェンダーと結びついた色の偏見を跳ね除けたバービーの姿勢がそこにはあるだろう。

しかしながら、『バービー』は決してフェミニズム映画と定義されてよいものではないだろう。というのは、そもそもこれをフェミニズム映画として解釈するならば、不十分な点が多くあるからだ。

バービーが人間界を訪れてすぐに、人間たちとの会話の中で Paris と Regina の有無に言及する場面がある。ダナ・ハラウェイの唱えたサイボーグフェミニズムの系譜を継いで、ポール・B・プレシアドは性器中心の——ここではとりわけペニスだが——性の分け方を「人体の植民地主義」として批判した。これを前提にすれば、この場面のように性器に拘泥して性別を語るのはフェミニズム的には時代遅れの感が否めないのである。

また、ポジティブな意味でフェミニズム的ではないという面もある。『バービー』の終盤、「バービー&ケンではなく、バービーはバービー、ケンはケンである。」という意味の重要なメッセージが何度も繰り返される。これは、現在の父権的男性社会を批判するのみではなく、そこに生きるすべての人々——男性も女性も、そしてそれ以外も——が他からの意味づけに縛られない社会を想定しているといえる。ジェンダーを自身のアイデンティティを決定づける要素として絶対視しない、人間存在を肯定するという姿勢、これによつて単なる女性のエンパワメントを叫ぶフェミニズムに回収されない結論を提示する。ここには、フェミニズムというよりも、現代トランス思想への可能性が開かれていると捉える方が自然であるだろう。

このように、すべての人がなりたい自分に、という主題を掲げてはいるものの、物語内ではそれが達成されて大団円とはなっていない。バービーは人間界を訪れて、自分が人気者ではなかったという事実直面する。そしてバービーランドの復権を果たした後には、

ケン「バービーの彼氏」という唯一のアイデンティティからの自立を促され、戸惑いと不安を抱えながらバービーランドの中で生きてゆくことになるだろうと、観客は予見することになる。だからといって、『バービー』のプロットがその主題を表現しきれていない、欠陥品であるということにはならない。むしろ何の保証もなく、戸惑いと不安に満ち満ちたまま自己を希求しなければならない、我々が生きるこの現実世界をそのまま肯定していると捉えるべきであるだろう。

ところで本作においてマンスプレイニング、いわゆるマンスプが鍵となる場面がある。そこでは車(ポルシェ)や映画(ゴッドファーザー)、音楽(ルー・リード)を語る男たちの姿が映され、それらは滑稽なものとして揶揄されている。しかし、こともあろうか連れ添った同期は、それらの引用の度に隣の席で声を出して笑っていたのだ。これに私は「俺はこの引用も知っているんだよ」というインテリ仕草、つまりはマンスプ的な仕草だ、と思ってしまった。マンスプを揶揄している映画を観て、マンスプ仕草に陥っているという構造はそれ自体が皮肉的だ。

また「Witcher(現X)」において、著名な漫画家が本作に対して「男性を必要としない自立した女性」のための映画だと酷評し、批判的となった。自立した女性」の存在を認めようとしないうこの姿勢が、父権的でアナクロな価値観で出来上がっていることは明らかであり、批判にさらされるのは当然である。

滑稽なのは『バービー』を観たことで、彼らの家父長制に基づい

た思考が自然と明らかになったということだ。その意味では本作は様々な場で、試金石としての役目を果たしている。

『バービー』は私がここで言及したこと以上に、様々な方向から語ることが可能な作品である。逆にいえば、この作品をどう語るかでその人の思想がよく分かるともいえるかもしれない。今回の舎誌の中で、いくつか所謂「ネタバレ」をしてしまったが、ネタがバレたところで面白さが半減する作品ではないので、未見の方は劇場で觀賞することをお勧めする。興行が好調なようなので、まだ当分は上映しているだろうし。

インターンシップ体験記

日本大学 理工学部機械工学科 三年

谷上 龍平

今年も舎誌を書く季節がやってきた。今回はこの夏の自分の経験から来年大学三年生になる諸君に向けてインターンシップのことに ついて書き綴りたい。少しでも参考になれば幸いである。

私は上京してからの三年間、夏は必ず帰省していた。帰省している期間も夏が一番長いのだが今年は何年通りというわけにはいかない。大学三年生は来る就職活動に向けて業界研究やインターンシッ

プの主な参加学年といったいわば人生のターニングポイントとなる重要な一年でもある。さらに我々二十五年度卒業予定の代から、何やら今までとは制度が変わりインターンシップの重要度が大きくなるなどのこと。日本経済新聞によると企業側は一定条件を満たすとインターンで得た学生の評価を採用選考に生かせる直結型になったようだ。つまり、採用選考においてインターンシップに来た学生とそうでない学生では簡単に言うとはじめから持ち点が違うということだ。少しでも興味がある企業や最初からここで働きたいという会社があるのであれば、ひとまずインターンに応募しておくべきであろう。このことから夏休みが近づくにつれて大学からも進学ではなく就職を考えているものはインターンシップに行くようにと、うるさく言われてきた。私は少しでも早く就職活動にはけりをつけたいと常日頃から考えていたこともあり、今後のことを考えてこの夏は主体的に動こうと早くから腹を決めて予定を組んできた。

さて、いきなり業界研究をしておいたほうが良いといわれても何をすべきなのか全く分からないだろう。業界は仕事を区別するための分類であり、自分がやりたいあるいは適性がある仕事を選ぶうえでどのざっくりとした指標である。まずはどんな業界があるのか、また業界の特徴を調べ、世の中にもどのような企業があり何をしているのかを見るところから始めるとよいだろう。業界研究は自分が興味のある、働きたいと思う企業を見つけるために探す範囲を絞ることだと私は思っている。私の場合は大学の方で就活に関してのイベントがあり、そこで業界を絞ることができた。大学の講義を受ける

中で流体力学と熱力学が私の中で面白いと感じ興味を持ったことから空調設備に関係のある会社に興味を持つようになった。そこでインターンに行くにあたって私の目的は空調設備の実機を作っている製造会社と完成した製品を建物に適切に配置する施工会社のどちらが自分に合っているのか業務内容を実際の現場に行き目で見て業界・企業の雰囲気の確認をすること。ゆえによくある1dayだと物足りない。条件として3days以上であること、工業見学・現場見学ができることを目安に探した。私が応募した中には二週間にわたって行われるインターンもあり期間が長いことから会社側も慎重に選考していてエントリーシートの提出からはじまり三〇分に及ぶ面接まであった。自分的には面接の場数を踏むという観点からもいい練習になったと思う。

少し逸れるがふと、この舎誌を執筆中にこの二十年とそこらしか生きていない私ではあるが自分はいくつ、面接という修羅場を潜り抜けてきただろうという考えが頭をよぎった。面接のタイプにもよるがあの独特な緊張感は日常生活ではそんなに経験することはできない。インターン先を探していた時点で、ぱつと頭に浮かぶのは防衛大学、岩陽学舎、バイトの三回である。私は面接が苦手でガチガチに緊張しやすい。攻略法のような大それたことではないが私は緊張を少しでも抑えるために今までで一番緊張した防衛大学の面接のことを思い出し、防大よりはましだと自己暗示するようにしている。実際に今回のインターン選考で行われたある会社のWeb面接でもやってみた。Web面接は対面の面接と比べると緊張しないの

で個人的には話しやすかった。しかし、採用面接は二段階あり私が調べた中では一回目が部長クラスでWeb面接、二回目が理事クラスで対面の面接とやはり対面からは逃げきれないので練習あるのみである。何はともあれ、緊張のし過ぎはパフォーマンスの低下につながるので自分なりの解決法を何個か持っておくと心強い。面接で好印象を残すにはどうしても慣れが必要だ。数をこなすことが一番であるのは間違いないので面接練習がメインでインターンに応募するのもいいだろう。

さて、実際にこの夏インターンに行けたのは三社で飛行機の部品メーカー、サブコン、空調設備の製造会社である。期間はそれぞれ三日、三日、五日で関東圏外のところもあった。交通費、宿泊費がもらえることが多く、インターン終了時にはおまけで旅行を楽しめることも醍醐味である。内容についてはサブコンの会社では二十七八歳の社会人五年目で現場の指揮を任されている方のところに現場視察に行き、現地で実際に施工した機械の見学や施工管理という業務内容についての説明があった。また、本社では三人一グループとなつて施工管理という仕事内容の理解を深めるためにボードゲーム方式で与えられた条件に合うように工事を進め、工事担当会社の選定や材料費、人件費をなるべく抑えて最終的に利益が一番多いチームが勝ちといった疑似体験を通して業務内容の理解を深めるようなものもあった。

製造業の業務内容としては部署によって様々だが製品の強度計算から組み立てる際の作業手順の指示、納品した製品のメンテナンス

ス、ボイラの試運転などを経験させてもらった。やはり実際に企業へ足を運ぶことで自分が働くことになった時どういった業務で飯を食っていくのか、会社で力を発揮するには大学生のうちには何をしておくべきか今後の自分の行動がおのずと見えてくる。百聞は一見に如かずとあるように大学で学んでいることが社会に出るとどのような形で使うことになるのかわかる。そうするとより学びの意欲がよりわいてくるのではないだろうか。

インターン先では全国各地から同世代の学生が集まるので情報交換や交流の機会でもあった。私がまず、驚いたのは院生が多いことだ。はじめは気おくれしていたが次第に就職活動の際は同じ土俵で戦わなければならないと思ひ臆せず話し合いができた。ある企業では最終的にパワーポイントで資料を作り十五分間で関わった社員さんに向けてインターンで得たものの成果発表をするといったこともあった。

気が付くと夏休みはインターンばかりであったがインターン生に向けた今後の採用での有益な情報や優遇措置など得られたものはかなり大きいことから私は行ってよかったと思う。これまで私のインターンシップでの経験を書いてきたがぜひ大学二年生の諸君は来年の参考にしてほしい。早い人は三年の五月頃には動き始める。気が付くとインターンの募集が終わっていた、なんてことになってほしくないので早め早めの行動を心掛けるように。

仏教と性的二元性

駒澤大学 仏教学部 三年

田弘 一真

一 はじめに

映画『バービー』、この映画はとてもおもしろかった。今年見た映画の中で、私にとっては頭一つ抜けた印象だった。男女のありようを考えさせられる内容だったのだが、そのような下手に扱えばある種の反発感を抱かせるような、聞いていて誰かに一言もの申してやりたくなるような主題を、この映画はうまく娯楽に落とし込んでいく。それでいて最後には希望的な未来への展望を掲げており、この作品を見ることによって非常によい映画体験が得られたと思っている。そのため今の私は性別という主題への関心が高まっている。よってそのことを今年の舎誌のテーマに組み込もうと思う。

二 両性について

人間の両性といっても、様々な形態がある。互いにどのような関係をとりかへようまでもなく場合によって異なる。代表的なものは雌雄、父母、男女の三つがあげられる。雌雄の関係、これは生物学的なものである。生殖の相手としての関わりであり、一時的なものであるといえよう。それと比較して、父母という次元はより社会的、文化的な性質を持つ。また、雌雄の関係と比べて非対称的な性質も有している。父母という存在は子の存在を前提とするが、母子

関係、父子関係の違いに父母というものに内在する非対称性があらわれている。まず、母子関係というものは哺乳類に普遍的な関係性であるのに対し父性に目覚める事例は比較的稀である。また、母子関係の始まりは肉体的、自然的なものであり、関係性はどのような母子においても存在する。それに対し父子関係とはそのきっかけが精神的、文化的なものであり、母子関係に対応した存在ではない。両性の関係のうち男女という形態についてはどちらも文化的なものであり、それぞれが相補的であるという点で共通している。しかし父母という関係性は文化と自然の間をまたぐものであり、父性、母性というものは対立する存在なのである。

三 仏教と両性

仏教の根本教理の一つである生老病死というものは、人間の有限性についてそれを受け入れることを説いたものである。ダルマと呼ばれる仏教の教理、それらは時代と場所によって変遷のあるところだが、初期から後代に至るまでを通して一貫して説かれてきたようないくつかの基本的なものは、世の中のありのままの姿を言い表し、またそれを受け入れることを語っている。しかし、そのような汎仏教的なダルマたちは性的二元性、そしてそれに付随する様々な苦しみに関してはあまり言葉を尽くさない。またそれに対する当時の人々の考えに対しての考察、思索に対してあまり力が入っていない様子は、他のダルマ―例えば死や病などについてのもの―とは対照的である。そういったそれらダルマの性格はそれを掲げる仏教教

団の運営、活動にも反映されているように思われる。例えば釈尊の在世時には、はじめ女性の教団への参加は認められていなかったようであるし、男女が共に教団を構成するようになってからも、出家者たちは基本的に異性ととの関係性について、互いに距離を置くという方法でその宗教的理想を追求してきた。そのような基本方針は男女隔離策と言い表すことができるだろう。近頃は男女の在り方に諸言説のある世の中だ。性的有限性に対するこの対処を、どう捉えるかは人によるだろうが私はこれを消極的だと評しよう。概して、初期の仏教は両性の有限性という問題、その中でも父母の問題についての関心が極めて薄い。雌雄、男女という関係性によって生じる問題には、互いを求めあう欲望を苦しみとしてとらえることによつて対処されているが、父母という存在の互いに相反する性質を持つことにより生じる対立という問題にはほとんど触れられない。それと、このように、仏教とはそれが起つてよりしばらく、出家主義の宗教であつた。社会生活、生産活動を否定し、それらから離れることを指向する。在家、家族の中でしか存在しえない父母という存在など、それも否定しており、それにより生じる問題などに気が掛けるはずもないのだ。

四 出家主義

仏教にはそのような出家主義的傾向がある。そしてその出家主義は在家の存在とは基本的に相いれない。仏教教団は在家信者の物質的支援のなしには基本的に存続することができないにも拘らずその

ような特徴があるのだ。もちろん、仏教はその長い歴史の中でその出家主義の有限性からの脱却を何度も試みてきた。その例が在家信者をも苦しみの現世から解放しようとして試みた大乘仏教である。大乘仏教と単に言つてもその実態は明らかではなく、今日大乘仏教の系譜に位置するとされている教え同士の関係、系譜は完全に判明しているわけではないが、その最終段階に位置するとされ、最も在家主義が強く、現世主義的傾向の極まった密教という教えがある。それは七世紀インドで、そのあまりの強勢ぶりから仏教勢力を大いに苦しめたヒンドゥー文化の流れにあるシヴァ信仰の要素を取り入れた仏教タントリズム、または密教と呼ばれるものである。それは従来の伝統的な仏教では苦しみの支配するところであるとされてきた現世を、苦しみのない仏の世界と同一のものであると捉え、現世を生きる人々を現世に生きるそのままに救済せんとしたものであつた。しかし、この密教が取り込んだシヴァ信仰に源流を持ち、タントリズムと呼ばれる現世肯定の教えは、あまりに仏教の根本教理と相反するものであつた。教団は仏教教団の根本にある教えからは決して許されない行為―性的行為を伴う修行など―に手を染め、仏教がその土台とする価値観からみて墮落と表現して相違ない姿へとなりはてた。そのような自己矛盾に陥つた密教教団は、今や廃墟と化した遺跡以外に、一切がインドの地から消え去つた。

五 出家主義の問題

そういつた歴史的経緯から分かるように、仏教は宗教として出家

主義の有限性を持っている。仏教の根本的思想では第二章で著述したような父母の有限性を克服することはできない。かといって、現世主義的な思想を取り入れれば取り入れるほど自己の存在を自ら否定してしまうことになる。教団が在家信者に悟りの世界へ成仏することを促せば促すほど、在家信者は現世での繁栄を失い、その支援に存続がかかっている教団はその体を維持できなくなる。精神的な充足を追求すればするほど物質的、肉体的な充足が失われ、滅びへの道も同時に追求することになるのである。仏教教団は、文化、精神と自然、肉体という対立点を有するという点で、父母の関係性と同じ有限性を抱えているのである。

六 出家主義的問題の克服

以上の仏教という宗教がその根底に抱えている問題は完全に脱却することはできない問題であると考えられる。出家主義の問題点を克服するには、出家というものを否定するほかないからである。適切な対策については、今後の検討が必要であろう。

筋トレについて

東京電機大学 工学部第二部電気電子工学科 三年

中島 章伸

これから舎誌を書いていきますが、とりあえず舎誌第五十一号（二年前の舎誌）を開いてください。表紙をめくると目次が出てきます。舎誌は書く内容について特に指定が無いため、学生が各々好きな内容を書いているのがわかりますね。

ですが中には、これ大学のレポート写したんじゃないか？と思うような物があります。しかし題名だけでそうと決めつけるのは酷いのはって優しい心の持ち主なら思うはずです。思わなかったら性格悪い可能性があるので気をつけてください。

話を戻して見ていくと、ある人は漫画の表現技法について書いていたり、次郎系ラーメンについて書いていたり、夏休みの思い出を書いていたり人も居ます。そんな自由が許された舎誌において、『十七、「インターネット免許制度の問題点、もしくは実施可能なしくみ」について』という題名があります。こんなこと書くと思う人は居るでしょうか。

皆さんこの題名をみて白か黒、どうでしょうか。私ははっきり言って黒だと思えます。優しい心の持ち主がいたとして、これも読んでみないとわからないと思う方が居たら、それは白黒付けられないだけのお人好しです。気をつけてください、詐欺に遭う可能性があります。

何度も話がそれてすみません。実はこれ、私の期末レポートなのです。びっくりしますよね。これには私も驚愕しています。恐らく今読んでいる方は気になって仕方が無いでしょう。なんで期末レポートを舍誌に載せているんだと。Why Japanese people! と。

そういった事もあって昨年の舍誌第五十二号で、私は『十、やめられない』を真面目に書かせていただきました。内容は依存症についてです。怖いですね、依存症。たばこ、酒、ネット、ゲーム、薬物だけではなく、買い物、ギャンブルから自傷行為、恋愛においても依存症は存在します。真面目に書いたので、割と自信を持って送り出せたと思いますが良かったですか。

ここまでお付き合いありがとうございます。舍誌を読み返してふと思った事を七百字近く使って書かせていただきました。そろそろ本題に入っていくかと思いますが。

今回のテーマは、最近やっている『筋トレ』についてです。昨年は真面目に書いたので、今年は楽に書いていきます。

筋トレは、身体を鍛えるために行われるエクササイズの一つであり、健康的な生活をサポートし、美しい体を手に入れるために非常に効果的な方法です。私は筋トレをしてからメリットなど多く感じているので、今回は筋トレについて、その利点、適切な方法、そして注意点について掘り下げていこうと思います。

まず筋トレとは、身体の筋肉を鍛えるために重りを使用するエクササイズのことを指します。これは主にジムで行われますが、自宅

や公共の場所でも行うことができます。筋トレの基本的な目的は、筋肉の成長と強化、代謝の向上、そして身体の機能を改善することです。

筋トレは主に重りを持ち上げたり、押ししたり、引いたりすることで行われます。一般的な筋肉グループには、胸部、背中、肩、腕、脚などが含まれます。トレーニングの種類や方法はさまざまで、目指す体によって変わってきます。

次に筋トレを行うメリットについて見ていきましょう。筋トレにはさまざまな利点があります。以下に、その主要な利点を紹介します。

- 一、筋力の向上…筋トレは筋肉を成長させ、身体全体の力を増加させます。これにより、日常生活の活動やスポーツでのパフォーマンスが向上します。
- 二、代謝の増加…筋肉はエネルギーを消費するため、筋トレによつて筋肉量を増やすことで基礎代謝率が向上します。これは体脂肪の燃焼を助け、体重管理に役立ちます。
- 三、姿勢の改善…筋肉のバランスが整うことで、姿勢が改善されます。特に背中や腹部の筋肉を鍛えることは、正しい姿勢を保つのに役立ちます。
- 四、骨密度の向上…筋トレは骨を強化し、骨密度を増加させる助けになります。これにより、骨折のリスクを減少させることができます。
- 五、心血管健康の向上…筋トレは心臓の健康を促進し、血圧やコ

レステロールを改善します。これは心臓病や他の慢性疾患のリスクを低減させます。

六、ストレスの軽減…筋トレはストレスホルモンの分泌を抑制し、ストレスの軽減に役立ちます。また、精神的なリラックスマンションももたらします。

メリットがわかったところで、効率的な順序を書いていきます。

筋トレを効果的に行うためには、適切な方法と技術が必要です。以下は、筋トレを安全かつ効果的に行うための基本的なガイドラインです。

一、ウォームアップ…トレーニング前に軽い有酸素運動やストレッチを行い、筋肉を温めてください。これによりケガのリスクを低減できます。

二、適切なフォーム…各エクササイズを正確なフォームで行うことが重要です。フォームが正確でないと、ケガの原因となります。

三、適切な重り…トレーニングの重さは、あなたの能力に合ったものを選びましょう。初心者は軽めから始め、徐々に重りを増やしていくのが良いです。

四、適切なセットとレップ…セットとレップの数を計画しましょう。一般的に、筋力向上を目指す場合は重量を上げ、筋持久力を向上させる場合はセット数を増やすことが有効です。

五、適切な休息…セット間の休息时间も重要です。筋肉の回復を

促すため、セット間に適度な休息をとりましょう。

最後に注意点について書いていきます。筋トレを行う際には、以下の注意点を頭においておくことが重要です。

一、過度な負荷…過度な重量や過度なトレーニングはケガの原因になります。自分の能力に合ったトレーニングを心がけましょう。

二、バランスの取れたトレーニング…特定の筋肉グループに偏ったトレーニングではなく、全身のバランスを取りましょう。

三、十分な休息…筋トレ後に十分な休息と栄養を摂ることが筋肉の成長に不可欠です。

四、ケガの兆候に注意…筋肉や関節に痛みや違和感が生じた場合は、トレーニングを中止し、医師に相談しましょう。

五、個別の目標…自分の目標に合ったトレーニングプランを立てましょう。筋肉増強、体重減少、または体力向上など、目標に合わせてトレーニングを調整します。

以上、筋トレについて簡単に説明してきました。

私は筋トレを初めて一ヶ月の新人ですが、とりあえず年末までは続けようと思っています。目指す体をイメージして、一年後には今とは比べものにならないムキムキな体が入ることでしょう。健康になりたい皆さんも、筋トレはじめてみませんか！

一つの事を極めるか、それとも様々なことに挑戦するか

早稲田大学 基幹理工学部学系Ⅱ 三年

中村 巽

私が今回、舎誌で書く内容は一つの事を極めるか、それとも様々なことに挑戦するかについてだ。なぜこの題材を選択したかという点、私は小さいころから様々なことに挑戦して生きてきた。例えば、習い事というダンス、ピアノ、書道、水泳、サッカーなど色々なジャンルに挑戦してきた。その中で、今回はスポーツに着目していく。私は、小学校三年生の夏にサッカーをはじめ中学に入るまでの約三年半続けた。しかし、中学に入ると私の入学した中学校にはサッカー部がなく、続けるためには活動時間帯が少し遅い社会体育部に所属する必要があるため、学業との両立の事も考えサッカーを続けることをあきらめた。そこで、新しく始めたのはバスケットボールだ。これに関しても、中学の三年間続け、キャプテンを務めた。そして、高校入学時には、バスケットボールをやめ、ハンドボール部に所属した。これらは、一見せつかくそれぞれのスポーツを続けてきたのにもったいないという印象が一般的にはあると思う。私も最初はそう考えていた。しかし、いろいろなスポーツに挑戦することのメリットもとても感じていた。例えば、サッカー、バスケット、ハンドボールそれぞれで培った動き方や、考え方がいい影響を及ぼしすべての球技について通ずるものがあると感じた。私自身、バスケットボールもハンドボールも初心者の状態から

始めたが、どちらもレギュラーとして試合に出ていたし、バスケットボールでは地区の選抜にも選ばれた。そのため、いろんなスポーツをまんべんなくこなせるようになり体育の授業では、すべての種目に積極的に参加することができた。これは、色んなスポーツにチャレンジしてきたがゆえに得たものであると感じた。一方で、どのスポーツも続けていないため、とりわけ目に見える大きな結果が出たわけでもない。それにより、私はとても無力感を感じるようになっていった。もつと続けていたら、などと思う日もたくさんあり、私はこの題材について人生で何度も考えてきた。したがってこの場を借りてもつと一般的に一つの事を極める利点と短所と、様々なことに挑戦する利点と短所について考えていきたいと思う。以下では、世間一般的に考えられる、一つの事を追求する専門家などに着目する。

まず、一つの事を極める利点について三つ挙げていく。まず、専門知識の獲得だ。一つのことを極めることは、その分野における深い専門知識の獲得を可能にする。この専門知識は、その分野でのリーダーシップや専門家としての地位を築くために非常に重要である。例えば、医師、科学者、エンジニア、芸術家などは、その分野での深い専門知識を持つことが求められるだろう。次に、高い品質の成果物が得られることだ。一つのことを専門的に追求することにより、生産物やサービスの品質が向上する。専門家はその分野での経験と知識を活かし、優れた成果物を生み出すことができる。品質が高いと、市場価値や信頼性が向上し、競争優位性を獲得できる。

最後に、問題解決能力の向上だ。専門家は、その分野における問題を深く理解し、効果的な解決策を提供する能力を持っている。彼らは過去の経験から学び、同様の問題に対処する際に価値のある洞察を提供できる。

次に、一つの事を極める短所について二つ挙げる。一つ目は、狭い視野である。一つのことを極めることは、その分野以外の知識やスキルの不足を意味する。このため、異なる分野の知識や視点を持つことが難しく、新しいアイデアやアプローチに制約が生じる可能性がある。二つ目は、依存度の高さだ。一つのことを極める専門家は、その分野の需要に依存してしまっていることがある。分野が衰退したり、需要が減少したりすると、彼らの職業的な安定性に影響を及ぼす可能性がある。以上が、私の考える一般的に一つの事を極める利点と短所である。

次に、様々なことに挑戦する利点について三つ挙げていく。一つ目は、多様な視点が持てることである。多くの分野にわたる知識やスキルを持つことは、異なる視点から問題にアプローチする能力を高める。これにより、創造的な問題解決が可能になる。さまざまな分野のアイデアやベストプラクティスを結びつけることで、新しいアプローチを生み出すことができる。二つ目に、柔軟性と適応力についてだ。多くの異なるスキルを持つことは、異なる状況や環境に適応する能力を高める。これにより、変化に対応しやすく、多くの分野で活躍できる可能性が広がる。三つ目に創造性の向上だ。異なる分野の知識やスキルを組み合わせることは、新しいアイデアやイ

ノベーションの源となる。クロスボーリネーションと呼ばれる現象が生じ、新たな発見や発展が可能になるのだ。

次に、様々なことに挑戦する短所について二つ挙げていく。一つ目に、理解の深さが不足していることだ。多くの分野にわたる知識やスキルを持つことは、一つの分野における深い専門知識の獲得を妨げることがある。深い知識なしには、高度な専門的な仕事には取り組めないかもしれない。二つ目に、資源の制約だ。多くの分野で活動することは、時間やエネルギーの制約を強いる可能性がある。全ての分野で優れた成果を出すことは難しく、リソースの効率的な管理が求められる。

以上が、私の考える一つの事を極める利点と短所と、様々なことに挑戦する利点と短所である。私は、自分がなにか突出していることがないことに関して悩んでいたが、様々なことに挑戦することの大切さもあることに今回考えてみて気づくことができた。そして、今の私は大学に通っており、真面目に授業を受けてはいるがそれだけでは将来に不安を覚えるばかりだ。そこで、最近はその勉強にプラスで英語とプログラミングの勉強を始めた。将来この勉強がどのように役立つかわからないが、大学生活の間にか自分で決めた目標に対して成果を出すことを経験したいと思いはじめた。しかし、独学はなかなか難しく結果が出るまでは時間がかかりそうではあるが結果が出るまで努力をやめないことを意識して頑張っていきたいと思う。それによって今までより、結果にこだわった努力の仕方をしたと思う。そうすることで、一つの事を極める良さも感

じることができると思う。

私は現在私立の理系大学に通っている。学費はとても高く、姉も東京の私立大学に通っているのにもかかわらず、両親は私の事を思っ無理をして私を大学に出してくださっている。

私は、そのことに対して心から感謝しているのに加えて、その頑張りに対して私も努力でこたえなければならぬと思っっている。両親は頑張ってくれてるだけでうれしいと、そういつてくださるが、私は最近今まで目に見える結果で親を喜ばせることはできないと考えることが多い。そのため、両親のおかげで通うことのできている大学生活を通して、必ず結果を残して両親を喜ばせたいと思っっている。様々なことに挑戦することは、親のおかげでたくさん経験することができた。しかし、一つの事を極めることは親の支えに加えて自分の努力が伴っっていないと実現不可能である。そのため、自分の努力を証明するために結果にこだわっていきたいと思っう。今回舎誌を通して、様々なことについて考えることができた。今回最後の舎誌になるため自分の考えについて追及することができ、本当に良かった。

旅行と映画

法政大学 法学部法律学科 三年

藤川 遥

私は夏と冬どちらが好きかと言われたら夏と答えていたのですが、今年の夏は暑すぎてもう冬が恋しいです。冬になったら早く夏が来て欲しいと思っ気になりますが。今年の夏は長い期間帰省して実家でゆっくりすることができました。地元の友達にもたくさん会えたし、人も少ないところなので過ごしやすかったです。最近、私は海外旅行に行きたい欲がすごくあります。今一番行きたい国はカナダで、タイとかにも興味があります。カナダは高校一年生の時に短期留学で行って以来、ずっともう一度行きたいと思っていました。行っった時は携帯を無くしたり、ホームステイ先でハプニングが色々あっったりしたのですが、それよりも楽しかったという方が何十倍も大きかったです。カナダは移民の人が多い国なので、他の国の人に対しての理解もあっつてみんな優しいです。少なくとも私が出会っった人はみんな親切でとても優しくかったです。タイに行きたい理由は、私がタイ料理などのエスニック料理が好きだからです。レモングラスが使われている料理が多く酸味がクセになります。東京でもいろんなタイ料理やベトナム料理を食べに行っつて楽しいので、もっと新しいお店を開拓っしていきたいです。蒲田にもミ・レイという中々予約が取れないベトナム料理のお店があっつて、一度行っった時に美味しくてびっくりしたので、もう一度行きたいです。タイに旅行に行っ

たら本場のエスニック料理が味わえるので是非行ってみたいですね。友達にも一人で海外旅行に行っている人もいて勇気あるなと思うので一人海外旅行も興味があります。国内旅行もたくさん行きたいです。実家が山口なので西日本はたくさん行ったことがあるのですが、東日本はあまりないので行ってみたいですね。東北だと岩手や山形に行って自然の中でゆっくりしたいですね。旅行は二泊とかではなく一週間くらいたつぷりしたいですね。

次に私の趣味の映画鑑賞について話します。映画は海外か韓国しか見ないのですが、ジャンルはアクションとホラーが好きです。アクションだと、ミッションインポッシブルやワイルドスピード、ベンジャーズが大好きです。過去の作品も何回も見直しますが、新作が出るたびにわくわくします。ジェイソンステイサムやジェレミーレナーが好きで二人とも上記の映画に出ているので嬉しいですね。今年はワイルドスピードが観にいけなくて残念だったのでですが、ミッションインポッシブルは見にいたのでよかったです。しかし今回のミッションインポッシブルは前編と後編に分かれていて後編が上映されるまで長いので、内容を忘れないか心配です。どうせなら完結で終わってほしかったですね。やはりアクション映画だけは映画館で観るべきだと思います。大きなスクリーンで見ることで迫力も伝わってくるし音も大きくてハラハラドキドキで楽しめます。今年も他にもジョンウィックの新作も出るので楽しみです。ホラーは寝る前によく一人で見るのですが、やはり一番面白かったのはSawシリーズです。ある日知らないところに人が集められて自

分の罪を自白したら解放されるという内容なのですが、中々人は自分の罪を自白できないので殺されてしまいます。殺され方も残酷なので見応えがあります。ほんとにたくさん見たので新しいホラー映画を探し中です。昨日ちょうど見たエスターという映画を紹介しました。養子として引き取った少女を中心としてストーリーが展開されるホラー映画です。一部グロテスクなシーンがありますが、さほど多くはなく、徐々に明らかになっていくエスターの人間性に恐怖する内容なのが特徴です。ストーリーはもちろん、子役らの演技が非常に高評価で、前日譚を描いた続編『エスターファースト・キル』も公開されています。人間の恐ろしさを思い知らされるおすすめの映画です。内容は、三人目の子供を流産で亡くしてしまったケイトが死産のストレスから、彼女は悪夢にうなされるようになります。娘のマックス、息子のダニエルと接する際は明るく振る舞いますが、運転中、通りがかった妊婦に気を取られて事故を起こしてしまうなど、まだ心の傷は癒えていない様子です。そこでケイトは、夫のジョンと孤児院を訪れることにしました。不安な気持ちはありつつも、失った子供への愛を、これから引き取る孤児に注ごうと決めたのです。

孤児院は、笑顔で遊び回る子供たちでいっぱいですが二階へ上がると、どこからか歌声が聞こえてきます。耳を澄ませた先にいたのは、教室で一人絵を描いている少女・エスターでした。彼女が考えた物語や絵画に感心したジョンは、エスターと一緒に様子を見に来たケイトとともに、エスターの話を聞きます。その後、エス

ターを養子として迎えることにした二人。しかしこの決断が、一家に惨劇をもたらすことになります。ここからは是非映画を見て楽しんでもらいたいです。最後に紹介するのはゲットアウトという作品です。ラストの結末が衝撃的すぎてとても印象に残っている作品です。強い社会風刺やパロディなど、メッセージ性のある作品を得意とするジョーダン・ピール監督の初作品です。低予算で制作された本作ですが、国内外で大ヒットを記録し、ピール監督は、アカデミー賞の脚本賞を獲得しました。内容は、クリス・ワシントン、写真家として活動している黒人男性で部屋には、彼が撮影したさまざまな写真が飾ってあります。ある日、白人の恋人・ローズが彼の部屋へ訪れてきます。ローズの両親のもとへ挨拶しにいくため荷造りをするクリスですが、どこか浮かばない様子でした。ローズが何かと質問すると、彼は自分が黒人であるため、それを咎められるのではないかという不安を吐露します。ローズは、自分の両親は差別主義者ではないから大丈夫だと、クリスをなだめました。それから、彼の不安は杞憂だったようで、ローズの家にとどり着いた二人は両親から熱い歓迎を受けます。父のディーンは、すっかり上機嫌で自宅を案内するため、クリスを連れ回し始めました。その途中、黒人の家政婦・ジョージナや、黒人庭師のウォルターと出会います。白人の家族と黒人の使用人。バツが悪いのか、ディーンは彼らを雇ったのは親の介護のためであること、親の死後も解雇する気になれないことを話します。しばらく経ち、庭でティータイムを過ごしていると、クリスが喫煙者であることが両親にバレてしまいま

す。悪い習慣だとし、催眠術療法ができるという母・ミッシーに治してもらおうよう促されますがなにか違和感を覚え始めます。極めつけは、親睦会パーティーに招待された客からの質問や行動でした。招待客に筋肉を触られたり、スポーツは得意なのかを問われたりしたので。黒人だからと差別をされた訳でもないのに、何かがおかしいとクリスは感じます。その違和感の通り、実はアーミテージ家は黒人を騙して誘拐して年老いた白人に黒人の肉体を提供している違法な会合なのでした。黒人の肉体に白人の脳を移植し、永遠の精神や命を手に入れようとしていたのです。娘のローズが黒人を連れて来ては母親が催眠術をかけ、父親が脳移植を担当する家族ぐるみの計画でした。ストーリーも非常に面白く、信じていた恋人も悪い人で熱中してみた作品でした。これらの作品を超えるような作品に出会いたいです。

大学で学んでいること

慶應義塾大学 経済学部経済学科 三年
松本 誠也

三回目の舎誌を書く季節がやってきた。去年と一昨年は大好きな漫画であるワンピースについて書いた。今もワンピースはとても盛

り上がっているので、ワンピースについて書こうかと思つたが、今年には授業で習つたことについて書こうと思う。経済学部経済学科に所属しているため様々な角度から経済を分析しているが、その際に「バブル経済」を例外として扱うことが多々ある。そこで今回の舎誌ではその「バブル経済」について書こうと思う。

バブルは日本に大きな影響を与えた。いや、いまなお与え続けているといつても過言ではない。一九八〇年代にバブルが起き、九〇年代にバブルが崩壊して以降、日本経済は停滞し続けている。ではこのバブルは防ぐことのできないものだったのだろうか。私は政策により防ぐことができたと考ええる。具体的に私が政策当局であつたならば、以下の四つのことをしただろう。一つ目が早期の金融引き締め、二つ目がそもそも銀行に預金が集中するという仕組みをつくらないということ、三つ目は不動産融資に厳しいルールを設けること、そして四つ目は銀行の状況を、透明性を持って公開することである。

なぜそう考えることができるのだろうか。それを知るためにはまずバブルが発生した要因、そしてバブルという言葉の意味を正しく理解する必要がある。ではなぜバブルは起きてしまったのだろうか。あれほど大きな出来事であるため、要因は一つではなく、いくつかの要因が重なって起きたと考えるのが自然である。そこで以下の三つの要因をあげる。

一つ目の要因は、貸出市場の構造変化である。金融市場が規制緩和され金利の自由化が起こつた。金利は上昇し、それと同時に預金

の量も増加した。個人や企業は預金することで利益を得ることができるので、銀行は預金過剰に苦しんだ。それと同時に優良企業は市場からの資金調達を増やし、銀行からの借入れを減らしたため、銀行は貸出先を巡って激しい競争をしなければならなくなった。この受け皿となつたのが不動産であつた。これがのちに土地バブルにつながることとなる。

二つ目の要因は、一九八〇年代前半の好調な日本経済による日本人の意識の変化である。一九八〇年代前半には、日本は自動車をはじめとする機械産業によつて、GDPを大きく上げていた。対米貿易では黒字であり、欧州の国々のGDPを抜き、アメリカにも迫る勢いがあつた。各国のメディアも日本を取り上げていったため、日本人は「自信過剰」や「楽観主義」に支配されていったのである。三つ目の要因は、アメリカの貿易赤字を解消するための政策の影響を受けたことである。アメリカでは金融引き締め、つまり金利の上昇があり、アメリカはドル高になつた。ドル高になるとアメリカのものは売れなくなり、輸出において利益を上げることができなくなる。そこでアメリカは一九八五年にプラザ合意を結んだ。「世界経済の安定的な成長実現するために、マクロ経済政策を協調してアメリカの経済収支赤字を縮小することが不可欠である」というアメリカにとつてのみ都合のいい理由で合意されたのだった。プラザ合意とはドル安にしてアメリカが輸出で利益を上げることができるようになるものであつた。アメリカがドル安になると、逆に日本は円高になる。円高になると今度は日本が輸出で利益を上げることができ

なくなる。輸出、つまり外需で利益を上げることができなくなった日本は内需、つまり国内で利益を上げようとした。内需を上げるために公定歩合を引き下げた。つまり金利を下げてお金を借りやすくして、国内でお金を流通させようとしたのだ。金利が下がったことで、企業は簡単に融資を受けることができるようになった。企業はそのお金を設備投資に使った。どんどん工場を作って物を作ろうとしたのだ。しかしそれには土地が必要である。そこで企業は土地を投資用に買うようになっていった。多くの企業が土地を買うようになり土地の需要がどんどん増していった。そうして一九八六年に国内の不動産ブームに火が付いたのである。企業だけでなく個人までもが、銀行から融資を受けてまで投資用に土地を購入した。ここで触れなければならないのは「土地神話」という言葉だ。戦後の日本は経済復興と経済成長が急速に起こったため、地価は上昇し続いていた。だから日本人は地価が下落するはずがないと本気で思い込んでいたのだ。実際に地価は上昇し続けたので、多くの企業や個人が不動産投資を続けた。こうして実態に見合わないのに価格が上がり続けたのだ。地価だけでない。株価も同じように実態に見合わず上がり続けた。

以上がバブルの起きた要因、そして流れである。バブルは人々を熱狂させた。簡単にお金を儲けることができるようになり、日本人の感覚をどんどん麻痺させていったのだ。バブルとは、実態に見合わない、つまり「期待によつてのみ価値が支えられているいかにも怪しげな存在」である。「土地神話」などの麻痺した考えによ

り、日本人は価値を誤って評価してしまったのだ。本来、経済は等価交換の下に成り立っている。しかしバブルでは等価交換は成り立たない。期待によつてのみ作られた見せかけの価値であり、それらと確かな価値を持つ財との交換が行われるのだ。つまりこれは不等価交換である。言い方を変えろのならば、ただの贈与に過ぎない。

またバブルを防ぐ対策を考えるうえで市場利子率と経済成長率に着目する必要がある。バブル期は利子率が低い。これは先ほど述べたバブルの発生要因から明らかであろう。利子率が低く、お金を借りやすくなるから、お金が過剰に流通し、バブルが起こる。しかし注目すべきは経済成長率だ。元来の経済学では、市場利子率が経済成長率よりも高いことを前提にして議論を行ってきた。しかしバブル期はこの前提を覆して考える必要があるのだ。現在のGDPが高い国々、つまりアメリカ、日本、中国、ドイツでは市場利子率が経済成長率よりも低いことが当たり前になっている。だからこそこの「低金利の経済学」を真剣に考えなければ元来の経済学が全く通じず新たな金融危機が起こってしまうかもしれないのだ。

これらバブルについての情報を踏まえたうえで、冒頭で述べたバブルを防ぐ対策について述べていきたい。まず一つ目の早期の金融引き締めである。バブルが起こったのは一九八六年であるが日銀が公定歩合を引き上げて金融引き締めを行ったのは、一九八九年とバブルが起こってから三年がたつてからのことだ。ましてや一九八七年にはアメリカとの政策協調のために公定歩合の引き下げをしている。バブル初期のころ、まだ多くの投資家たちは土地の価値を本質

的に見抜くことができている。しかしバブルが長引くと市場に勢いがついてきて、資産価格は本質的価値で決まると思っていた人たちも価格はバブルの経路にある、つまり見せかけの期待からなる価値を信じるようになってしまったのだ。そうなる前に早期で引き締めを行ってあげれば、土地は見せかけの価値に上がることはなく、土地神話が投資家に浸透することもなかった。ここでの日銀の対応は間違っていたと言えるだろう。そこから二年間引き締めを行わなかったのも反省すべきポイントだ。バブルは人々の期待によつてのみ価値が支えられている。つまり人々の、「地価は上がり続ける」、「損することはしない」という期待が大きくなるにつれて、地価も上がり続けることになる。だからこそ早期の引き締めが必要であったのだ。バブル発生から二年が経った一九八八年の段階ではもう手遅れであったのだ。以上よりバブルを防ぐために、投資家たちが土地の価値の本質を見抜かず見せかけの価値にのみ期待するようになる前に金融引き締めを行うべきだったのだ。

二つ目は銀行にお金が集まる仕組みを作らないということである。上で述べた通り、企業は社債などの発行により資金調達できるようになり、また利子率が上がったことで個人や企業からの預金が増え銀行は預金過剰となった。巨額の預金は集まる一方で貸し出しは減っていたのである。その貸し出し減少の穴を埋めるために不動産融資を盛んに行った。この預金過剰が起きなければ、または貸出相手がいなくならなければ、また銀行は国内市場で貸出先を巡って激しい競争を繰り広げていた。ここで国内だけでなく国外にも目を

向けていたらよかったのではないだろうか。国内だけで探すから貸出先が見つからず、不動産が預金の受け皿となるしかなかったのだ。国外に貸出先を見つけていけば銀行で預金過剰になることはなかったであろう。

三つ目は、融資のルールを厳しくすることだ。不動産融資をする際にもっと細かいルールがあれば、不動産投資が活発に行われることもなく、地価が急上昇することもなかった。融資する時には担保とするものが必要である。このころは例えば一億の価値しかない土地を担保に、五億の融資をするなどをしてきた。しかし五億が見せかけの、期待から作られた価値であることはバブル早期であればあるほどわかるはずである。だから土地を担保にする際に、本当に本質的価値がその土地にあるのか、担保にしているものなのかを、厳しい基準を設けてチェックするべきだったのだ。これができていれば、無理な融資をすることはなく、不動産バブルは起こっていなかったはずだ。

四つ目は、情報の公開である。当時はバブルに関する知識が少なく、過去の事例から得た多くの教訓の中からの教訓を八〇年代のバブルに当てはめてはいいかわからなかった。しかし正しく判断できていた人もいたはずである。そのためにも透明性を持って銀行の状況などを公開し、ありのままの情報から多くの人の意見を参考にする必要があったと考える。そして正しいことを言っている人たちが少数派かもしれない。だからこのように、知識が乏しい時こそ少数派の意見を聞き入れる体制を作ること、バブルを防ぐうえで重要

だったと考える。

以上で述べた、早期の金融引き締め、銀行の預金過剰の回避、融資に対する厳しいルールの作成、ありのままの情報公開の四つが、私の考える八〇年代のバブルを防ぐ方法であったと考える。先ほども述べたが、現在は大国で市場利子率が経済成長率よりも低いことが当たり前になっている。こうした時代において「低金利の経済学」から目を背けることはできない。そしてこれから低金利の時代において、バブルから得た教訓は必ず生きてくる。日本はバブルにより長期的に経済が停滞している。今後同じことを起こさないためにも、もう一度バブル経済について考え、どうやったら防ぐことができたか、そして同じようなことが起こった時に行かせる教訓は何なのか、一人一人が考える必要がある時代になっているのである。

「情報メディア」の単位取得

東京音楽大学 音楽学部音楽学科 二年

片山 深晴

私は機械音痴です。友達に話すと、最初は高確率で「絶対そんなじゃないから大丈夫だよ」と返ってくるのですが、一度私がパソコンで作業するところを見せると、「ここまでとは思ってなかっ

た、やばいね」と毎回のように言われます。今回は、そんな私がこの春学期に大学で「情報メディア」という授業を履修し、なんとかぎりぎり単位を取得したことについて書いていきたいと思っています。このテーマに決めた理由は、私がこの舎誌の原稿提出の締め切り直前の今のレベルで、字数を増やすために適当なことを書くのではなく自信を持って三〇〇〇字書けることは考えた時にこれしか思いつかなかったからです。

私の大学の情報メディアの授業は、パソコンを上手に活用する方法を学ぶ授業です。ワードやエクセル、パワーポイント、記譜ソフトなどを使って簡単な（私にとっては非常に難易度が高い）課題を授業内でひたすらこなし、その日の課題提出が終わったら帰ることでできます。なぜ機械音痴の私がこの授業を取ったのかというと、教職課程の必修科目で、三年生までにこれを取らないと教育実習に行けないからです。母がスマホを持っていない影響で、機械なんかなくても生きていけると思っていたし、もちろん取らずにすむのなら履修してはいないと思います。

この授業はルール上、授業前にスマホで課題を見ることができるので、空きコマやスキマ時間を使って終わらせてしまい、出欠確認が終わったらすぐ帰るという人も何人もいました。私も本当はそうしてしまいたかったのですが、春学期は大変さを考えずに興味のある授業を全て履修してしまったので、毎日一限から六限まで授業が詰まっただけで空きコマがなく、授業内で課題を終わらせられなければ、家で睡眠時間を削って提出するしかないという状況でした。こ

れ以上ないくらい機械音痴な私は授業内では課題の五分の一くらいしか終わりません。そして他の課題の譜読みや練習を切り上げて二時ごろ学舎に着くと疲れてそのまま寝てしまい、期限内に課題が出せないパターンが何度も続いてしまいました。一番悔しい思いをしたのは、記譜ソフトを使用して楽譜を作って最後に移調するという課題です。何時間もかけて音符や記号などを打ち込んで、あとは最後に移調するだけというところまで終わったところで寝落ちしてしまい、起きたらまだ時間は少しだけあったのですが充電が切れてしまったのでデータが全て消えてしまい、期限の時間に間に合わなかったのです！

そうこうするうちにいつの間にか七月に入り、残りの授業も少なくなってきたところで、提出期間が二週間もある大きな課題が三つ出ました。①コンサートの企画をしてチラシを作る、②ユーチューバーになりきって五〇秒以内の動画作成する、③作成したチラシと動画のコンセプトなどの説明に自己紹介を加えて三分以内の一つの動画にまとめ発表する、という課題です。これは提出点と発表点、他の生徒の作品を評価するともらえる点、上位三人はクラスメイトの評価と投票による加算点もプラスでもらえるので、単位を取得するためにとても重要な課題です。私はこの時点で点があまりない状態だと自覚していたので、この大きな課題たちは減点をゼロにするつもりで、他の科目より優先して取り組みました。しかし、コンサートのチラシの提出期限を二週間だと思っていたのに実際は一週間と六日しかなく、そのことに気づいた時には既に提出期限を過ぎ

てしまっていたので、なんと一つ目の、チラシの点がもらえませんでした！

完全に単位取得のための余裕がゼロになってしまったところに二つめの動画制作の課題が出たのですが、これは意外と一番楽しみながら取り組むことができました。カフェ巡りや演奏の動画、自分が作曲した曲の披露、料理動画などにする人が多いですが、私は加算点を狙わないと単位が危ないので、音大生が評価してくれそうなのをと考え遂行しました。体力と粘り強さには自信があるので、昨年からやってみたいと思っていた「徒歩で山手線一周」に挑戦してみることになりました。

提出期限の二週間で一日だけ全休があったので、その日を丸一日使って、ユーチューバー気分分で動画を撮りながら散歩を楽しみました。朝の五時四〇分頃に学舎を出発し、六時半に品川をスタートしました。品川大崎間が意外と道が分かりづらく、距離もあったのでこの先が少し不安になりましたが、大崎駅を過ぎてからは特に大変なところはありませんでした。新大久保あたりで少しだけ心細くなっていたところに、ピアノ専攻の友達二人から連絡があり、差し入れを持って目白駅まで応援に来てくれたので、そのまま一緒に大に寄って休憩しました。ピタリ予定通りに歩けたので、二時間だけ予約していた練習室で少し歌いに行こうとすると、友達に全力で止められ諦めました。練習してから再開していたらそれだけ帰るのが遅くなっていたので、正解でした。その後も様子をみに行こうかなというラインが来たり、また新橋あたりで、充電がなくなっ

てきた上に道が複雑で不安になっている時にちょうど心配して電話してくれたりして、動画のタイトルを「友達のありがたさ」に変えようかとも考えたりしながら、二〇時四一分に無事品川まで戻ってきました。歩数計アプリによると、合計六万四千歩、四八キロ歩いて、二千カロリーを消費できたようです。

次の日は、私のオペラの稽古が終わるのを友達が夜まで待っていて、二二時頃まで大学でおすめの編集アプリや編集の仕方を教えてもらい、締め切り前日になんとか動画を完成させることができました。友達の助けなしには達成できていなかったと思います。

さて、動画を無事に提出して安心したのもつかの間、更なる危機が訪れました。この授業は毎回の課題と最後二回の授業内でのタイピングテストの合計点がそのまま自分の点数になり単位を取得することができません。筆記試験も出席点もないということを入ってから知り、毎回の授業内の課題がほとんど出せていなかった私はとても焦りました。すぐに自分の合計点を計算し、タイピングテストで五〇点中三六点取れば単位がもらえるということを先生とも確認しました。初回の点数は九点でしたが、パソコンさえあれば自由に練習ができるので、携帯に不都合な大きめの自分のパソコンを毎日大学に持って行って、一〇分休憩と昼休みにひたすら練習しました。そしてタイピングテスト一日目。授業時間内であれば何度でもチャレンジできますが、ほとんどの人がもう既に単位取得のための点数をこえている状態で出席していたので、授業開始から二〇分くらい経つと教室には私と先生だけになっていました。授業が終わる

まで頑張つて、出た最高点は三〇・八点、あと六点足りませんでした。「もう一週間練習してきます」と言つてその日は帰り、二回目の週に一発目から三八点を出すことができ単位取得が確定しました。性格上、同じことを何度も繰り返し続けるのは嫌いではないので、タイピングテストの練習が楽しくなつてしまい、この日も授業が終わるまで教室にいた結果、四〇・一点まで得点を上げて帰ることができました。

情報メディアはこれまで受けてきた授業の中でこの上なく苦痛な時間でしたが、単位を取得し終わった今振り返ってみると、パソコンの扱いが少しは上達した実感があります。タイピング練習、チラシ作り、動画編集、楽譜作りでは、楽しいと思う瞬間が何度もありました。パソコンの扱いは、HUI化がどこまでも進むこの時代は大学の卒業後何をするにしてもできた方がいいに決まっています。この授業を嫌々、文句を言いながらも履修して良かったと思います。少しずつ機械音痴を克服していきたいです。

思った通り、だらだらとあつという間に三〇〇〇字の舎誌が完成しました。読んでくださった皆様ありがとうございました！

『竹取物語』から学べること

駒澤大学 文学部国文学科 二年

河井 風香

今回の舎誌では、『竹取物語』について取り上げようと思う。この作品は、高校の授業の時に習ったことのある人も多いのではないだろうか。大学の授業で『竹取物語』について深く学び、興味深いところが多くあった。そして、死についての捉え方が興味深いと思いい、この作品を取り上げることに決めた。

人間世界において不死などの永遠に続く、変化しないことはプラスに捉えられる場合が多い。実際に不老不死を良いものとして捉えて描いている作品が多い。多くの作品は悪役が欲しがらるものであるが……。しかし、『竹取物語』から永遠に変化しない、衰えないことが良いことばかりではないと学ぶことができる。この考えはどのようになされたのか考察し、そこから現代にどのように生かせるのか考えていこうと思う。

『竹取物語』とは、簡潔にまとめると翁や求婚者たち、そして帝と関わっていく中で人間として成長するかぐや姫を描いた物語である。翁が姫とともに、竹から生まれたかぐや姫を育て、成長したかぐや姫は皆を魅了する美しい娘になった。多くの求婚者が現れ、結婚をしたくないかぐや姫は、五人の求婚者たちそれぞれに試練を与え、その試練を乗り越えたら、結婚することを約束した。しかし、一人も試練を達成する者はいなかった。そして、帝までもかぐや姫

の美しさに惚れ、求婚する。かぐや姫は帝の求婚すら断る。かぐや姫は翁に人間世界の人ではないことを告げ、翁と離れたくないと伝える。しかし、天には逆らえず、かぐや姫は月に連れて行かれてしまう。帝に不死の薬を渡すが、かぐや姫のいない世界で不死になっても意味がないと富士の山に焼き捨てた。

まず、かぐや姫の「死」に対する考え方が分かる場面を見ていこうと思う。『竹取物語』の終盤に、かぐや姫が翁に対して次のような言葉をかける。

〈本文〉

「声高になのたまひそ。屋の上ををる人どもの聞くに、いとまさなし。いますかりつる心ざしどもを、思ひも知らで、まかりなむずることの口惜しうはべりけり。長き契りのなかりければ、ほどなくまかりぬべきなめりと思ひ、悲しくはべるなり。親たちのかへりみを、いささかだに仕うまつらでまからむ道もやすくもあるまじきに、日ごろも、いでゐて、今年ばかりの暇を申しつれど、さらにゆるされぬによりてなむ、かく思ひ嘆きはべる。御心をのみ惑はして去りなむことの悲しく堪へがたくはべるなり。かの都の人は、いとけうらに、老いをせずなむ。思ふこともなくはべるなり。さる所へまからむずるも、いみじくはべらず。老いおとろへたまへるさまを見たてまつらざらむこそ恋しからめ」

〈現代語訳〉

「大きな声でおっしゃいますな。建物の上にいる人々が聞くと、

たいそうみつともないことですよ。あなた様方のこれまでの愛情をわきまえないで、出ていってしまうことが残念でございます。前世からの宿縁がなかったために、このようにまもなく出ていかなければならぬのだと思い、悲しゅうございます。両親に対するお世話を、すこしもいたしませぬまま出かけてしまう道中であつてみれば、当然安らかではありませんまいから、この数日の間も、縁側にすわつて、月の国の王に、せめて今年だけでもと休暇の延長を願つたのですが、まったく許されないので、このように嘆いているのでございます。ご両親様のお心ばかりを乱して去つてしまうことが、悲しくて堪えがとうございます。あの月の都の人は、たいへんすばらしく、年をとらないのです。また悩みごともないのでございます。でも、そのような所へ行こうとしていますのも、いまの私には、うれしゅうございません。ご両親様の老い衰えなさるようすを見てさしあげられないことが、なによりも慕わしゅうございますので」

〈本文〉

この国に生れぬるとならば、嘆かせたてまつらぬほどまで侍らん。……

〈現代語訳〉

私、この人間の国に生れたというのであれば、ご両親様を嘆かせ奉らぬ時まで、ずっとお仕えすることもできましよう。……

このように、かぐや姫は人間の世界と天(月)の世界を「この国」と「かの都」と対比し、人間の世界を「この国」と表現することにより、人間の世界に対して帰属意識を持つていようことを暗に表現している。永遠に変化しない天の世界ではなく、常に変化していく人間の世界で翁たちとともに過ごしたいと主張している。言い換えると、かぐや姫は死ぬことのない世界よりも衰え死ぬ世界のほうが良いと言つていようことである。ここから無常であるからこそ良いのだという意味と似たニュアンスを感じられる。このかぐや姫の考え方は、無常観という仏教思想からきていようと考えられる。なぜなら、『竹取物語』の成立は諸説があるが、平安時代初期に成立した物語であると考えられていて、平安時代初期は仏教思想が流行つていたからである。昔の文学作品を読むと、このような仏教思想に基づいて描かれているものは多く存在する。昔は現在よりもさらに寿命が短かつたため、このように死を受け入れるような思想が皆に浸透したのだろうか。無常という言葉を聞いたことのある人は多いと思うが、改めて確認のため意味を掲載しておく。

む・じよう「:ジャウ」【無常】

解説・用例

〔名〕

(一) (形動) (梵) anitya の訳) 一切万物が生滅変転して、常住でないこと。現世におけるすべてのものがすみやかに移り変わつて、しばしも同じ状態にとどまらないこと。特に、

生命のはかないこと。いつ死ぬかわからないこと。また、そのさま。

*勝鬘經義疏〔六一一〕歎仏眞実功德章「異於昔日帰依無常」

*万葉集〔八〇後〕一六・三八四九・題詞「厭世間無常歌二首」

*方丈記〔一一二二〕「そのあるじと、すみかと無常をあらそふさま、いはばあさがほの露にことならず」

*日蓮遺文―上野殿母尼御前御返事〔一一八〇〕「をいたる母はとどまりて、わかきこはさりぬ。なさけなかりける無常かな無常かな」

*大燈国師法語〔一三三七頃〕「世間は無常にして幻の如く電の如し」

*曾我物語〔南北朝頃〕一・二・母二宮ゆきわかれし事「日月天にめぐりて、有為を旦暮にあらはし、寒暑時をたがへずして、むしやうを昼夜につくす」

*北本涅槃經―「是身無常、念念不住、猶如電光、暴水幻炎」

*遺教經「世皆無常、会必有離」

(二)特に、人の死をいう。

*正法眼蔵〔一一三二―一五三三〕出家功德「おほよそ無常たちまちにいたるときは、国王、大臣、親、従僕、妻子、珍宝、たすくるなし」

*徒然草〔一三三一頃〕四九「人はただ無常の身に迫りぬる事を心にひしとかけて」

*仮名草子・竹斎〔一六二一―二三〕下「さても人界に生を受けし人、誰かむじやうをのがるべきにはあらねども、老少不定こそ悲しけれ」

(三)連歌・俳諧において、死葬に関する詞(ことば)、または句。これを初折の表よむことを嫌う。

*俳諧・三冊子〔一七〇二〕白双紙「恋・無常その外嫌ふ古事・本説を下心にして、表にあらわさず」

*俳諧・俳諧古今抄〔一七三〇〕上・再撰貞享式・二「さて連誹の古法より、表八句の間には、神祇、釈教、恋、無常、名所、人名をも嫌ふ事は」

このことから、『竹取物語』では人間の世界と天の世界を対比し、無常であることの良さを強調している。無常だからこそ良いのだという考えは、仏教思想からきたものであると考えられる。

この考え方は、現代においても学べるところがあるのではない。私は無常であるからこそ良いという考え方について次のように考える。『竹取物語』では月の都の人のことを非人道的に描き、対して人間は愛情深く描いている。このことから、常に変化し終わりがあがる人生だからこそ、人は様々なことで苦悩し、他者への想いが生まれると、それが良いことなのだという考えなのではないかと解

積した。私は実際に何度か様々な別れを経験したが、その経験から死や別れについて深く考えることが多くなったように感じる。別れがあるからこそ他者を気遣う気持ちが生まれ、死があるからこそ他者のことを何倍にも大切に思う。この気持ちこそが、いじめなどの他者を傷つける行為が減らすために重要な考え方なのではないかと考えた。

参考文献

『新編 日本古典文学全集』（片桐洋一、福井貞助、高橋正治、清水好子、小学館、一九九四年二月二五日〜二〇〇二年一〇月一八日書籍版刊行）

『日本国語大辞典』（日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館、刊行二〇〇〇年一二月）

「平均寿命と健康寿命 - e - ヘルズネット - 厚生労働省」 (<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-002.html>)
閲覧日二〇二三年八月一九日)

短慮と遠慮

上智大学 総合グローバル学部総合グローバル学科 二年

川本 蓮

「短慮」という言葉がある。よく考えず、先々のことを想像しないで考え、決断することを指す。一方、短慮の対義語としての「遠慮」がある。一般的には他人に対して控えめにすることを指すが、短慮の対義としては、遠い将来のことを考えることを指す。ちなみに、こちらのほうが原義であるらしい。

【頭の回転が速い人】

よく「あの人は頭の回転が速い」、「あの人は頭の回転が速くて優秀だ」などという話を聞く。「頭の回転が速い」とはどうやら、人の話を聞いて即座にまとめることができ、且つ得意即妙な受け答えや適切で速い行動ができる人のことを指すらしい。ことわざでいうと「一を聞いて十を知る」というような人であろうか。

私自身も、大学のサークルや部活、授業仲間、バイト先、テレビやSNSなどで「頭の回転の速い人」をみかける。例えば、私は大学のサークル活動として模擬国連（実際に国連などで話し合われた議題を各国大使になりきって議論し、それぞれの国益に合うならかの成果文書を決議することを目指す活動）をやっているのだが、「頭の回転の速い」人はこちらの質問に隙を見せずにまた根拠となる国際法などをつらつらと述べあげくにこちらの弱点を突く質問を

一瞬間にする。授業で習ったことを議論するときも、こちらの話をすぐに理解して、すぐになんらかの説得力のある意見を出す。

確かにそのような人は優秀に違いないし、どのような社会、組織でも重宝されることだろう。けして頭の回転が速いとはいえない私はその人たちを尊敬するし、またうらやましくも思う。

このような頭の回転が速い人はたくさんではないにしろ、どの空間やコミュニティにも存在する。

【短慮】

「頭の回転が速い」ことは「短慮」と紙一重ではないか。決断や回答が速い人を取りあえず「頭の回転が速い」人と評してはいないだろうか。

私は先にのべたように大学で模擬国連という活動をしている。国連を模擬しており、また参加者はどこかの国の大使になりきるため、相手国の質問や意見に即座に答える必要がある。私はある時、敵対している国に質問をなげかけられ、すぐにもっともらしい答えをだし、結果、悪くはない成果を残した。少なくともこの時は、当意即妙な答えをすぐにだせたのだから、頭の回転が速かったかもしれない。

しかし、これは「短慮」であった。確かにその会議の中では自国の意見を反映し成果を残せたが、そのさき十年二十年のことを考えれば、自国の立場をあやういものにするものであったのだ。

一見素早くもつともな答えにみえるものであっても長期的に見れ

ば欠陥でしかない、頭の回転が速いのではなく「その場しのぎ」がうまかっただけであった、というようなことはいろいろな場面よく見かける。ましてや、頭の回転が遅い、私のような普通の人が即座に適当な答えを出そうとするとかえってから回って、その場しのぎにもならないようなことしかできない。

【遠慮】

うれしいことに、「遠慮」は誰にでもできる。頭の回転を速くし、当意即妙な言動を行うには才能がいるが、先々を見据えて深く考えることはほとんどの人ができる。

先に引き合いに出した模擬国連でいえば、自国の歴史や宗教、政治、ほかの議題も含めた過去の言動を調べ上げ、交渉の相手となる国も調べ、先に相手の質問や意見を予想し回答を用意する。そこまですれば応用もしやすくなる。受験であれば、自分の得意分野と志望校の出す問題の偏向を分析し事前に慣れておくこと、就活であれば、自己分析・業界分析などをよく行い、面接官の質問への回答をよく準備しておくことであるだろうか。そこまでいけば受験であつても就職活動でも想定外に出くわしても応用が利くようになる。

これらのことをやっていない人に対しては「遠慮」の才能がないとはいわず努力不足といわれる。つまり、普通、「遠慮」はだれもができ、またできるということが自然なこととしてとらえられているといえるのである。「計画性」とも言い換えられるが、「計画を立

てて動こう」とは小学校の中学年には親・教師などから言われるようになる。

【人生と短慮】

それにもかかわらず、こと「人生」という壮大な、かつ身近なものに対してはたいいていの人がある場しのぎの行動をしていないようにみえる。受験期になれば受験を考え、大学も二年になればそろそろ就職活動を考えなければならぬと考え、社会人になってから結婚のことを考え、定年近くなつてから第二の人生を考える。それぞれ重大な時期であるのにもかかわらず、漠然と考え、その場しのぎの「長期的な考え」をして、ほとんどの人は何を目的として、受験をして大学に行つて就職をするのか考えない。その時その時の計画は立てるが、先々の人生全体を前々からよく考えたりはしない。自分が死ぬまでを考えて終活（就活ではなく）をする大学生はおおらくない。

もちろん、二十年前の世界と今が違ふようにどんなに調べたり考えたりしても六十年後八十年後を想定することはできない。けれどもどのような場面でも行動の基幹となる自分のことを知らないというにもできないのではないか。自分を知らなければ、結果的にその場しのぎの人生になってしまう。

ではどうすればいいのか。『自分だけの答え』が見つかる 13歳からのアート思考』（末永幸歩 ダイヤモンド社、二〇二〇年）によれば芸術を鑑賞するポイントとして、この絵は何か、どこが好き

か、それはなぜ好きか、またそれはなぜなのか、という視点があり、それは自分を探求することとある。芸術と向き合うことで自分というものがみえてくるのだそうだ。これを応用すれば、例えば好きなスポーツ、音楽、なんとなくやりたいこと、に対して、なぜ好きなのかそう思うのか、それはなぜなのか、と探求することで自分というものが見えてくるのかもしれない。

あるいは、歴史を学ぶことも自分を知ることになるかもしれない。『戦争まで』（加藤陽子、旭出版、二〇一六）の一章によれば、歴史を学ばなければならぬ理由は、自分が生きる社会を歴史のなかのものさしでとらえ位置づけるためだという。自分を歴史にあてはめてみることでできれば、それはつまり自分を知ることになるのではなからうか。

よく考える、自分を知らうとすることは誰にでもできる。時間のある大学生ならば特にそうだ。

例えば大学一年で就職活動のことを考えて「ガクチカ」になることをするのは先々を考えて動いている、といえるのかもしれないが、実はそれでは足らず、そもそも自分とはなんなのか、ということについて考えなければならぬのではないかと最近ふと考えた。

生きていく上で大切なもの、幸せとは何か

青山学院大学 経営学部経営学科 二年

末政 快晴

二度目の舎誌となり今回は前回と比較すれば慣れていると思うので、少し難しいテーマで筆をとろうと思う。ここ最近、生きていく上で大切なもの、守りたいものは何なのかという事に関して考える機会が増したように感じる。つまり生きていく中でこれをしていたら一番楽しい、喜びが大きいというものをどうやったら選びそして実現できるのかという事になるのである。この問題は多くの人が大きな問題として抱えるものであると考えるが、最近では、その事を悩み実現できずに苦しんでいる人が多くなってしまうているように感じる。今回は、自分に関して考えた際に感じる幸せ、また世間一般で幸せと考えられている事に関して述べていこうと思う。私が一番楽しいと思う事は、友達と遊ぶ事である。幸運な事であるといっているのだろうか、私には現在感謝すべきことに多くの友人達がいる。地元の友や大学、趣味で出会った友やアルバイト先の友など出会うの場は様々であるが多くの友人に囲まれそして支えられ生きている。友達と遊ぶことは、自分の人生を豊かにしてくれるものであるといえるし、また友達と様々な場所に足を運ぶ事によって学ぶ事によっていろんな場所の文化に触れる事も可能であるため、私の様々な場所に行き様々な人と交流するという価値観と一致する事もあり、このことが自分を最も楽しませてくれるものがあると感じてい

る。ここからは少し現実的な話となるため、ご留意いただきたい。人生は、楽しいことばかりをやっているほど甘くはないという事は、私より多くの人生を歩んでいるであろうこの冊子の読者の皆様にならご理解いただけるであろう。厳しさの例として、友達と遊ぶのにも、出かけるにせよ、出費というものは避けられない。遠方への外出ともなると言わずもなである。私はこの大学に入学してからの一年は金銭的な悩みをなくすため学業に支障が出ない程度という観点を大切にしながらアルバイトを頑張った。しかし、そこでまた一つ大きな壁に直面した。それがいわゆる「一〇三万の壁」である。学生アルバイトがこの金額の収入を年に超過してしまうと親の扶養から外れて高額の金額の支払いが生じるのである。この程度の知識しか私にはないため、詳細はご自分で調べていただきたいが、とにかく超えてはならないものだ。大学生は非常に忙しい。大学での勉強に遊び、資格の勉強、部活など様々なことがある中で皆、有限かつ貴重である時間を有効活用すべく尽力している。また大学生には、「時間はあるが金はない」というフレーズは巷で多く使われているし、私自身は予備校の先生から教えられた。もしこの壁がなかったならば、必死にアルバイトをして多くの金を稼ぎ出し、もっと自分の生活を豊かにするべく活用できるのに結局は稼げない。辛いなど感じる。どうにかならないのかなと少し憤りさえも感じた。若干、脱線気味ではあったが本題に戻る。生きていく上で大切なものは何かという本題であるが、次に仕事との関係性で考えてみようと思う。多くの人は、仕事は辛く疲れるし大変

なものであると考えているケースが多い。また多くの人がそうは捉えながらもなんらかのやりがいを感じながら取り組んでいるのも事実である。このようなテーマを考えたときによく出てくる典型的な問題提起として「働くために生きるのか、生きるために働くのか」である。人は、よつぼどの富裕層の家庭に生まれてこない限り働いて収入を得なければ生きていくことは不可能なのである。この問題に関してだが、前者は完全に仕事に自らが支配されているような言葉で一般的には否定的なものとして考えられがちであるが、実は奥が深い。例としてサッカー選手はどうであろうか。下部の選手ならまだしも超一流の選手は食事や普段の生活リズムなどを全て試合で最高のパフォーマンスを発揮するべく調整し、本来食べたいものや寝たい時間などに背きながら生活している。これは働く(仕事)のために生きているといえるのではないだろうか。大谷翔平が生活するためなら十分すぎる収入を得ていながら「二刀流」、「成績に固執」しながらプロ生活を続けている事もまたこの一例と言えるのではないか。私は、絶対に前者にはなりたくない。もちろん自分がやりがいを感じる事に対し全てを費やすことは素晴らしい事であるとは考える。生活に必要な収入を得ることができながらそれができるのであるならばなおさら素晴らしい事だ。しかし今の自分にとって仕事はやりがいを見出す事は可能であるとはいえ、趣味や楽しい事を超越するような幸せを得ることは不可である、そう感じる。趣味が仕事になる人なんて一握りだけだ。この考え方は、年を重ねたら変わるものなのであろうかわからないが、個人的なポリシーとして変わ

らなければ良いなど思う。次に、天秤の話だ。人生では取捨選択が重要であると言われる機会は多いといえるだろう。いわゆる「何かを得るには何かを犠牲にしなければならぬ」である。人生において何が大切であるのか、何なら犠牲になっても良いのか。それを判断することは非常に難しいように感じる。例えば、勉強と遊びの両立である。就職活動を控えた現在、勉強に本腰を入れ始めた(遅い)のであるが、一日に〇時間勉強すると決めたら、自然と遊ぶ時間は少なくなってしまうし、しかし大切な仲間との時間もかけがえないものであると板挟みになってしまう。両立というものは非常に難しいし一人暮らしで家事に時間を取られる際は困難を極めるものとなってしまっているのである。将来の安泰を求めて勉強をして就職活動に励み、良い成果を得る方が幸せになれるのか、それとも仲間達とたくさん遊び最高の思い出を作り続けていく方が幸せになれるのか。私はしばしばそんな「天秤」に揺られながら直近は過ごしてしまっているのだ。コストパフォーマンスを常に追い求め続ける考え方をする人の多い現代の産物なのかもしれない。最後。理想の話。理想が高いという事は良い事だと思えますか。理想の高さには良い側面と悪い側面があると考えます。最近では、思い描いた理想があまりにも高すぎ、そして完璧主義者であるが故に現実との乖離に苦しみ悩み、ときには命までも絶ってしまうようなそんな現実を社会は有している。そんなマイナスの側面を孕む一方で理想を実現するためには並外れた努力を続けることができれば理想が実現出来なかったとしても大きく近づき成長しているからプラスの側面も有してい

る。要はものにするか、プラスとマイナスどちらに持っていくかは自分の心の持ちようなのである（だけとは断定できないものの）。幸せの実現には理想の実現努力が欠かせないので、この問題からは逃れる事ができないというのも現実問題苦しい。ここまで生きていく上で大切で幸せとはなんなのかまたその要素や過程等を列挙して見たが、それらはどれもある意味正答がそこに確かに存在しないものばかりである。読者の個々に考え方がるから、これを読みながら自らの考え方を整理し、自分の中の「正答」が心に浮かんだのならば、それが読者も少なく、また常日頃から忙しい大学生が三〇〇〇文字も舎誌を執筆する意味となるのであろう。

Green 2020

東京歯科大学 歯学部歯学科 二年
宮下 真輝

私は、現在、東京歯科大学の歯学部歯学科に通っていますが、そもそも私が歯科医師を目指そうと思ったきっかけは、もともとGreenが好きで中学二年生のころの冬に家族で『キセキ あの日のソビト』というGreenを題材にした映画を見たことです。Greenは「存じの通り、歯科医師とアーティストを両立したグ

ループです。映画の内容は、歯学部の学生をしながら、Greenというアーティストが誕生していく青春物語で、その時の私はそれに影響を受けて、その日の夜に家で「母ちゃん！わし将来、歯科医師になって音楽やる！」と言ったそうです。今回はこのように私の人生にとって大きな影響を与えてくれたGreenのこととその楽曲についてお話ししようと思います。

まずGreenについてですが、メンバーは四人で、全員が歯科医師として仕事をしながら音楽活動をしています。歯科医師の本業に支障を出さないようにするため、メンバーの顔は一切公表せずに活動しています。

Greenの四つの「e」は、メンバーの人数と、笑顔になるときに見える歯並びをイメージしています。「smile」を届ける存在でありたいというメンバーの気持ちだそうです。

Greenのロゴマークの「e」の角度は一八度で、いい歯↓い↓は↓一八という意味だそうです。

このように、歯科にこだわりが強い音楽グループで、現在、私は映画の中で見た彼らと同様に歯学部の学生をやれていることが改めてうれしいです。

ここからは、Greenの楽曲について、特に私を元気づけてくれた曲を紹介します。

まず、一つ目に私が紹介したい曲は、Greenのデビュー曲である「道」です。中学生のころから、この曲には本当に元気付けられました。大学生になった今でも落ち込んだ時などによく聴きます。

私が特に元気づけられた歌詞が、「振り返ると歩んできた道のり以上に濃いもの得れたのか？それはわからないが 自分が決めた道だから意地かなんか見せつけて ほとぼしる ここにいる 気持ちぶつけ前行く 楽しい日々だけが人生じゃない 唇かみしめる日々も必要じゃない？ きつとそれがわかれば それが君のスタートで足かせ外してさらに前へ」という歌詞です。この曲を初めて聞いた時からずっとこのフレーズが大好きで、落ち込んだ時などにこの歌詞を聞くと、また頑張ろうと思えます。

次に紹介したい曲が「ワイはワイワイでいいワイ〜お前 why〜」という曲です。これは、高校三年生の時に聞き始めた曲です。最初は何だ？この変な曲は。と思い、聞いていませんでしたが、当時はまっていた野球選手の藤川球児選手の登場曲と知りきいてみました。すると歌詞がとてもよく、曲調もポップで元気になるような曲だったので今でも聞いて元気を出しています。その中でも好きな歌詞が、「ほら 小さな幸せが転がってるのに今日もため息ばかりです。やることなすこと裏目に出ちゃって周りの目ばかり気にしちゃってもつまらないでしょう？同じだけ過ぎてゆく DAY BY DAY 今だつてうつむいてちや前が見えないよ」という歌詞です。落ち込んでいてもこの曲のおかげで気分が晴れることがよくあります。

次に紹介したい曲は「Green boys」という曲です。この曲は「Green boys project」という東日本大震災の支援の一環として、復興ソングとして作曲された曲です。そのほかにこの曲は柳田悠

枝選手（福岡ソフトバンクホークス）や田中英祐、和田康士朗（いずれも千葉ロッテマリーンズ）、岡林勇希（中日ドラゴンズ）様なスポーツ選手が登場曲としている曲です。（引用 Wikipedia）この曲は、冒頭の歌詞からすべて自分に元気をくれる歌詞になっています。その中でも外せない部分は二つあります。一つ目は、「誰もかれもがはじめは一緒 どこかでわかってた どんないままで？関係なくてとにかく進めばいい 悔しくて涙すること あるんだろうけど 歩みを止めちゃ変われないだろう」という歌詞です。この部分は何度も私を鼓舞してくれた曲です。二つ目の歌詞は、「不安はいつも僕の勇気をとどまらせようとすけど、雨の日だって風の日だって進むから近づく 痛み失望 涙も全て受け入れていければ明日は笑えるそんな気がする 未完成な僕ら 掴みたいんだろう笑いたいんだろう自分の足に限界なんてだれがきめたんだ」という歌詞です。この歌詞は、浪人のころ、本当に自分の志望校に合格できるのかと不安に思っていた時によく聞いて自分を奮い立たせていました。大学生になった今でもよく聞いています。

次に紹介したい曲は「歩み」という曲です。この曲の歌詞も大変いい歌詞で、小学生のころからよく元気をもらっていました。その中でも特に好きな歌詞が、「そりや、誰だって 思い通りいかずに つまずき人と比べ、自分だけなんだと決めつけて自分負けたんだ心 締めて 馬鹿にされて悲しくなって また誰かのせいにして逃げて そんな自分が許せなくて いつか出会える最高の自分みじめな時は笑えばいいさ 大事なことは見えていますか？さあいこう 君な

らいける明日」という歌詞です。この部分は高校のころも元気も
らっていましたが、大学生になった今でも、普段の勉強などで挫折
しかけたときなどによくこのフレーズを聞くことで、もう一度頑
張ってみようという気持ちになります。「特別ななんてほんと嘘っぱ
ちです 足で進んだ日々が今の君へ 前へ進んで描いた *message* が
いて汗水かいて泣いてないでマジでかい夢つかむ心忘れないで 消
えない勇気心刻み 見えない明日を切り開く鍵」という歌詞です。
二つ目のフレーズはラップ調で歌われていて聞き取りやすく、聞く
ときは毎回この部分を聞いたりするほどです。

次に紹介したい曲は「イカロス」という曲です。この曲はカルピ
スのコマーシャルに使われていた曲で、大変明るく気分が明るくな
るような曲です。この曲の好きなフレーズは、「やりたいこと全部
諦めないで どこまでも いつまでも 追い続けるんだ この先描
く未来図に不安や困難もあるだろうめぐりめぐっていく時代 僕ら
にも羽がある 君の描く未来は 君自身で羽ばたいてやれ 羽ばた
いて 輝いて 描いてやれ」というフレーズです。私はこのフレ
ーズに幾度となく元気をもらってききました。

最後に紹介したい曲は「夢」です。この曲はキャリタス就活20
17というコマーシャルに採用された曲です。就活など様々な状況
で頑張っている人にエールを送る曲です。私自身も受験などでこの
曲に大変元気をもらえました。特に好きなフレーズは、「間違いの
中で広がるものと 不安の中で深まるものと 全部が全部今の自分
を 大きく広くさせてくれるさだから何も怖がらないんだ そんな

明日を望んでいるんだ いつか きっと たどり着くため 今は転
んでも立ち上がるのさ そして 道が 広がった先に 多くの自分
が笑って待ってるさ」というフレーズです。この部分は歯科医師国
家試験を受けるであろう私自身に重ね合わせることができるので勉
強を始めるときや落ち込んだ時などによく聞きます。

以上、私の人生に影響を与えてくれた *Message* とその楽曲につい
てでした。

神道の大雑把な歴史

東京大学 理科二類 一年

清永 遥生

今回、僕は神道の大雑把な歴史について調べてみようと思う。そ
もそもは、千代田区にある神田明神という神社の歴史（変遷）につ
いて調べてみようと思っていたのであるが、時間的余裕が不足して
おり、それに付随して図書館等で文献を漁る余裕もなく、今回ハー
ドルを下げ、神道全体を一度俯瞰してみようと思う、今回このよう
なテーマにした。

そもそも神道の起源は諸説あるが、古代の日本で自然発生的に生
じた自然宗教である、と考えられることが多い。縄文時代が始まり

であり、弥生時代から古墳時代にかけて神道の原型が固まっていたのだと考えられる。そのころは神道という概念はなく、聖典もなかったが、しかし、暮らしている中で山や火などの自然から農業に使われる道具、米粒の中にまで神様がいるという「八百万の神」の考えが受け入れられ、徐々に祭祀であったり神を祀ったりする場所が作られるようになったといわれている。

初めに、古代日本の、神道黎明期における礼拝の方法を見てみよう。この時期の日本では、神々への信仰や一種畏敬のようなものが強く、いわゆる「禁足地」である宗像大社や沖ノ島はこの時代のものに由来しているようだ。また、神社参道の中央も神の通り道として禁足となっているがこれもこの時代に由来している。また、この時代には自然や祖先への感謝や供え物が行われていた。お盆は現在でこそ仏教行事として認識されているが、後々記す神仏混淆の影響を受けたためであって、しきたり等はこの時代の神道に由来しているものが多い。祈祷や占いは現在の神社神道まで受け継がれているものも多く、神社への参拝時に行われる、手を合わせ祈りをささげて神々の加護を求める行為だけではなく、亀甲占いや祭り矢・祭り弓（現在ではほとんどみられないが）、おみくじの源流となるものもこの時代の信仰に由来している。また、芸能として現在まで受け継がれる相撲（神事としての興行）や舞（纏舞、獅子舞）や神楽、太神楽などもこの時代に源流を持つものとされている。また、地域振興の中心的な役割も担っていて、社会の結束、共有の場ともなっていた。

五世紀ごろになると、仏教が日本でも広まりだし、神仏混淆が進行し始めた。この時期には神社と寺院が結びつきはじめ神仏混淆の影響を受けながら、神社の礼拝方法は変化した。人々は神社で神事を行いつつ、寺院で仏教の修業を行うなど、異なる宗教的要素を組み合わせた信仰が行われた。また、神道における神様が、仏教における仏様に置き換えられたり、同一視されたりしてしまう出来事も起こった。例えば、大黒様は、神道の神様の大国主命と仏教の神様の太閤が融合したものであったり、弁財天は仏教の神様であるが、日本三大弁財天の「江ノ島神社・竹生島神社・厳島神社」で信仰されることからわかるように神道における神様と勘違いされていたりする。また、お稲荷様といえは稲荷神社を想像することも多いが、実際には神道、仏教ともに「お稲荷様」が存在したりもする。このように、仏教の影響を受けて神道の信仰も変化した。

近代に入って、明治時代の神仏分離令が發布されると、神社と寺院の関係が分離されるようになった。神道は国家神道として強調されるなかで、神社の礼拝方法も変化した。明治時代から戦前にかけては、神社における祭りごとや神事が強調され、国家・国民の結束や皇室への忠誠が最重視された。

ここで少々本筋とはずれるが、大日本帝国憲法において、信仰の自由というものは保証されていた。したがって学校教育において神道を教育することは理論上禁止されていたのだが「国家神道とは宗教ではない。道徳教育である。」という考えのもと、国家神道を教育していたのである。また、神道においては八百万の神々という言

葉に象徴される通りさまざまな物々に神様が宿る、という考えは有名だが、国家神道においては天皇陛下が信仰の対象となり、極端な言い方をすれば天皇陛下自身こそが神様である、とも考えられるようになった。極端な見方をすれば、信仰を少しずつ変性させていき、全体主義、国粹主義につながるやり方は、ISISとも類似したやり方である。主体的に学ばれない限り歴史は繰り返すことの例にも思える。

現代の神社においても伝統的な礼拝方法が依然として尊重されているものの、科学技術の進歩に即して新たな要素も取り入れられている。参拝者はお賽銭を納めて、手を合わせて祈願することが一般的である。さらに、神社のウェブサイトやSNSを通じてオンラインでの参拝や、オンラインでの授与品の通販、神社についての情報提供なども見られるようになっていく。現代のテクノロジーが従来への信仰と融合している。

これについて、「神社に実際に赴かず参拝するのは邪道である」といった意見がちらほらみられるそうなのである。しかし、富士山信仰というものを考えてみてもらえばよい。実際に富士山頂上にある浅間大社奥宮に参詣する人は過去よりあまりおらず、ふもとにある本宮浅間大社から富士山を参拝することが多かった。これからもわかるように昔から物理的問題などで実際に参拝することが難しい場合に、「遥拝」という、遠い場所から神社を参拝する、という文化も存在していた。つまり、オンライン上での上記の参拝方法とは、「遥拝」文化が変性して生じた、地続きの新たな参拝文化であ

る、と考えることができる。

上に記したように、参拝文化が現代の科学技術に即して変化していることの一例がネット参拝であると思う。しばしば科学技術と宗教とは二項対立のように書かれることも多いが、全くそうではないということを知ることができてよかった。初めに書いたように、はじめ神田明神の変遷について調べてみようと思ったのも、サブカルチャーと宗教という、本来は相反するような二つが融合していく場所の一つだからである（千代田区の秋葉原にあるからか、サブカルチャーと融合したような神事がたまに行われる。最近ではアニソン盆踊りなる行事も行われていた）。他宗教においても、現代文化と触れ合って変化しているのか調べてみたい。

死ぬまでにしたい10のこと

日本大学 経済学部経済学科 一年
高木 将土

私が死ぬまでにしたい10のことを書こうと思います。一つ目にしたことは、世界一周です。日本を除いた一九五カ国を周ってみたいです。各々の国の自然や文化に触れ、日本の自然や文化と何が違うのか、また、同じところは無いのかなどを肌で実感し、新しい

知識や経験を積みたいです。私は綺麗な景色を見ることが好きなので、世界各国の美しい景色を写真に撮りたいです。特に、カナダのカナディアンロッキー、ボリビアのウユニ塩湖、ペルーのマチュピチュ、タイのサムイ島、スイスのリッフェル湖、アイルランドのモハーの断崖などその他にも多くの名所に行つて非現実な体験をしたいです。また、食についても興味があります。韓国料理、中華料理、タイ料理、スペイン料理、インド料理、フランス料理など日本にもお店がありますが、本場の料理をそれぞれの国に行き、食べてみたいです。

二つ目は、札幌のお風呂に入つてみたいです。現在ではそれをするためのお金が足りないというのがありますが、単純に罰当たりな行動であるためしようにもできません。厳密に言えば、札幌のお風呂に入るまでのお金が欲しいというのが本音ではありますが、可能であるならば生きているうちに一度はやってみたいと思います。しかし、それをする効果やメリットはなく、普通にお風呂に入る方がリラックスできるのですが、お金を持っているという自覚を持ちたいがためにやってみたいです。また、お金関係で言えば、家のものを全て金で統一してみたいです。これも札幌風呂同様、特に意味はなく、ただお金を持っていることを自覚したいたためです。

三つ目は、ドームを貸し切って単独ライブしてみたいです。大きな空間で何も気にすることなく、全力で歌を歌い、ストレスを発散させたいです。アーティストの方々がどんな感じで歌を歌っているのか気になりますし、家で歌うのとどのくらい違うのかも気になり

ます。あと好きな歌手がいるため、その人と同じ景色、同じ場所に立ちたいと思つたからです。

四つ目は、無人島で暮らしたいです。その島にあるものだけで家を作り、食材を集め、自給自足の生活を送りたいです。とても過酷であり、難しく、もしかすると死ぬという状態にまで陥ってしまう可能性がありますが、今自分に置かれている状況がどのくらい幸せで、贅沢であるかを知ることが出来ます。それを感じることで自分の更なる成長が見込めます。何も無いところから生きることの難しさ、当たり前のように衣食住が揃っていることを身をもって知りたかと思つたため、やってみたいことの四つ目として挙げました。

五つ目は、映画あるいはドラマに出演してみたいです。これは主役としてではなく、脇役でも、通行人Aでもなんでも良いのでとにかく出てみたいです。そして、後からテレビで自分を見つけて、周りに自慢したいです。しかし、欲を言うなら、刑事ドラマの主役を務めてみたいです。昔見たドラマの刑事がすごくカッコよくて自分も拳銃を持つて犯人を追い詰めたかったです。恋愛系にはあまり惹かれませんが、面白そうなのでキューピット役として出演してみたいです。映画やドラマの舞台裏がどのようなになっているのか、制作から公開まで俳優になったつもりで携わってみたいです。また、有名な俳優や女優と共演できるのも出演してみたいことの一つの理由です。将来自分のやってみたいことや就きたい仕事を、作り物でありませんが実際に体験することが出来ますし、多くの人に多大な影響を与えられるとても魅力的な職業であると思つたため、やってみたい

ことの一つとして挙げました。

六つ目は、お金や時間を気にせず、好きなものを好きなだけ食べたいです。私は甘いものがすごく好きであるため、ケーキ、シュークリーム、チョコレート、クレープ、パフェ、アイスなど甘いものを沢山食べたいです。とてもお金がかかってしまうため、やろうにもやれないから人生で一度はやってみたいです。また、お肉も好きなので、好きなだけ食べたいです。これをやりたいという人は結構多いと思います。

七つ目は、飛行機の操縦です。パイロットという職業にすごい憧れがあるからです。多くの乗客の命を預かりながら、遠くへ人を送り届ける姿がとてまかつこいいです。責任とプレッシャーを抱えながら、操縦しなければならぬのは強大な精神力が必要であります。離陸と着陸の時は、その倍、プレッシャーがあると思います。なりたくてもなれないとても難しい職業だと思います。そのため、人生で一度は体験してみたいです。私は初心者であるため、絶対に向いていない職業です。映画やドキュメンタリーなどでトラブルがあった時などに、操縦に集中しながらも乗客を安心させる姿を幾度となく見てきて、すごかつこいいと思います。

八つ目は、日本全国のご当地グルメを食べたいです。北海道から沖縄まで四七都道府県全ての県を周り、その土地でしか味わえない食べ物を食べたいです。もちろん、移動手段は自転車です。何もかも忘れて、ただひたすら自転車を漕ぎながら沢山の自然や人々に触れ、心を癒したいです。やりたいことの一つ目の中でも述べました

が、私は食べることが好きであるため、とにかく食べまくりたいです。東北地方や北陸地方には滅多に行く機会が無いため、一度は行ってみたいです。ご当地グルメを食べることが目的ではありませんが、他にも観光名所も周りたいです。特に、富士山には登ってみたいです。飛行機の上からしか見たことがないため、実際に近くで見て登ってみたいです。

九つ目は、大谷翔平選手の球を打ってみたいです。野球をしている人なら一度は考えたことがあるであろう、大谷翔平選手の球を打つ、これをやってみたいです。誰もが憧れる大谷翔平選手からヒットを打てた時はおそらく、どんな大会を優勝した時よりも嬉しいと思います。そんな経験を一度はしてみたいです。また、ピッチングだけではなく、大谷翔平選手のバッティングも間近で見てみたいです。WBCの活躍にはとても感動しました。その活躍を見て、私も野球がやりたくまりました。野球をする姿だけでなく、人としても尊敬できるところがたくさんあり、とても憧れている選手です。そのような選手と野球を通じて交わりたいです。

最後の一〇個目は、猫を飼いたいです。私は生まれてから一度も動物を飼ったことがありません。しかし、動物はとても好きで、その中でも特に猫が好きです。動物を飼うにはお金が必要だったり、お世話が必要だったり大変だとよく聞きます。そのため、一人暮らしだとなかなか飼うのが難しく、気持ちだけが大きくなっていきます。将来的には、猫を二匹は飼いたいです。祖母の家には猫が二匹おり、お盆や、年末年始に行った時の楽しみの一つです。とても

癒しになり、飼いたい欲がどんどん強くなっていきます。特に小さくて両手におさまるくらいの小さいサイズの猫を飼いたいです。寝る前には猫の動画や写真を見て寝るくらい好きです。自分自身でお金を稼げるようになり、生活に余裕が出てきた時には真つ先に猫を飼おうと思います。

私は死ぬまでになりたい一〇のことを書きましたが、こんなにもしたいことがあるのだと自分でもビックリしました。まだまだこれからもっと見つけていくと考えると楽しみになってきました。是非、これを読んだ方も考えて見てほしいです。

子どもの体力・運動能力の低下

日本体育大学 体育学部健康学科 一年

中村 果鈴

昨今、子どもの体力や運動能力の低下が日本の社会問題として取り上げられるようになった。この背景には便利な生活がもたらした運動量の低下や身体を動かして遊ぶ時間・空間・仲間の減少がある。一九七〇年代後半から塾や習い事で忙しい子どもたちが増加している。古い遊具の老朽化に伴い、遊具を撤去することによって子どもたちの遊び場は減少し、昔と比較すると放課後や休日に子どもたち

が外で仲間と群れて自由に遊ぶ姿はほとんど見られなくなってきている。また、新型コロナウイルスの流行の影響により、二〇二〇年三月からは全国の小・中・高校などで臨時休校となり、それに伴い、運動系部活動や民間のスポーツクラブも活動を自粛・休止し、身体を動かす機会の減少にさらに拍車をかけた。私自身高校生になってすぐに自粛生活が始まり、室内を一時間ごとに換気したり、マスクを着用したまま活動を行ったりしたため、必然的に運動量が減少したように思う。三年後の五月には新型コロナウイルスが第五類感染症へと引き下げられ、行動制限も緩和された。子どもたちの体力もこれで少しは向上していくことが期待されたが、新体力テストの結果を見るに、子どもたちの体力は向上どころか低下を示していた。そこで私は過去五年間の新体力テストの結果の分析を小学生にフォーカスして行い、問題点とその解決策を考えたいと思う。

新体力テストの項目は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「二〇mシャトルラン」「五〇m走」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」の八つである。このうち「長座体前屈」は令和元年度と比較すると概ね向上傾向にあるが、「上体起こし」「反復横跳び」「二〇mシャトルラン」については、記録が大きく低下した。他の項目も大差はないが低下傾向にある。加えて、体力合計点の評価の変化をみると、男女ともにA・Bの割合が減少し、D・Eの割合が増加している。また、これまで行われてきた新体力テストの結果からも一週間の総運動時間が四二〇分以上の児童は、それ以外の児童と比べ体力合計点が高いことがわかっている。しかしながら、一週

間に四二〇分以上運動する児童というのは年々減少しており、現在その割合は男子で約四割程度、女子で約三割程度だ。統計的にみると、特に男子の方が顕著に減少している。

過去五年間に子どもたちの体力や運動能力の低下は著しい。この五年の間に起きたことといえば新型コロナウイルスの流行だ。休校期間中により一層進められた「教育のデジタル化」。視覚・聴覚を刺激する学びは臨場感があり、物事を習得しやすだろう。一方で教育がデジタル化されることにより懸念されることもある。それは、タブレット端末やスマートフォンなどの画面を見る「スクリーンタイム」の増加だ。近年では、子どもに幼少期の頃から電子機器を持たせる世帯が増えてきているため、子どもたちにとっても電子機器というのは切っても切り離せない存在であるということは確かだ。しかしその影響で、外に出て遊ばなくなり、健康にも被害が及んでいるのが現状だ。スポーツ庁の小学生のスクリーンタイムの調べによると、「平日に四時間以上画面を見る」と回答した男子生徒は二割強、女子生徒は二割弱であり、子どもの肥満率は年々増加傾向にあるようだ。健康の三大要素は、「運動」「栄養」「休養」だ。このうち一つでも欠けてしまうと健康であるとは言えない。しかし、運動量が減少し、肥満体系の子どもたちが増加している現在、健康である子どもというのは少ないのではないだろうか。そこで特に重要視されるのが「睡眠」だ。もし次の日に試験や大会が控えていたとしたら、前夜は早く眠るだろう。睡眠を取ることによって、活力、疲労、抑うつ、怒り、情緒混乱が改善するため次の日の活動

をスムーズかついつも以上の力を発揮することが可能になる。また、良質な睡眠を取るためには、昼間に太陽の光をしっかりと浴び、適度な身体活動、規則的な食事摂取、時間を意識した生活が求められる。反対に夜間は、できるだけ暗い場所で生活することを心掛けることが重要だ。そうすることにより、睡眠導入ホルモンと呼ばれる「メラトニン」というホルモンがたくさん分泌される。この「メラトニン」というホルモンは一度獲得したら永久的に体内に残るものではない。先ほど挙げたポイントを毎日継続して行う必要がある。実際、子どもたちを対象に夏休み期間中に長期キャンプを実施したところ、日に日にメラトニンの分泌が促進され、スマホ依存症でなかなか寝付けなかった子たちでさえキャンプ中は九時には眠ることができたようだ。しかし、キャンプが終わってからのメラトニンの分泌量を見てみると、外での活動が減少したためか分泌量が減少していた。そのため、良質な睡眠を取るためにも継続的に外での活動をするのが大切であるとわかった。

子どもたちが健康的に日々の生活を送れるようにするためには、健康生活のパロメーターである「早寝・早起き・朝ごはん」を達成することが求められる。私自身小学生の頃に「早寝・早起き・朝ごはん」が大切だということを幾度となく教えられてきたが、これらの目標というのは個人の意思変化だけで成し得ることはできない。家族の協力が必要となる。そのため、「早寝・早起き・朝ごはん」の前段階として、個人でも取り組める「光・暗闇・外遊び」を目標に立てる。この三つの要素は良質な睡眠を取るために挙げたポイント

トを簡潔にまとめたものだ。将来養護教諭として子どもたちと関われるようになった際には、子どもたちに睡眠や運動の大切さについてわかりやすく伝えていきたい。

映画レビュー

神奈川大学 経済学部経済学科 一年

平中 達海

私は大学生になり、高校生の時より自由な時間が増えた。そのため暇つぶしに映画を観るのが趣味になりつつある。大学生になって観た映画を一部、紹介する。

『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』

世界を支配しようとする大魔王クッパを、キノコ王国のピーチ姫は民たちと迎え撃とうとしていた。そんな中、マリオは双子の弟・ルイージをクッパに囚われてしまう。マリオは弟を助けるためにピーチ姫、キノピオたちと共に大魔王クッパを倒す旅に出る話である。

小学生時代、3DSの小さい画面で見ていたマリオ達が映画の大画面で見ることができ、とてもわくわくだった。そして、ところどころにマリオシリーズゲームの世界観が取り入れられており、小さ

い頃から親しんだキャラのストーリーがとても楽しい作品だった。

『マイ・エレメント』

エレメントたちが暮らすエレメント・シティで、夢に向かって日々努力する火の属性の女の子エンバー。ある日、彼女は自由奔放な水の属性の青年ウェイドと出会い、人生を見つめ直していく。そして、相反する火と水の属性を持った男女が立場の違いを乗り越えて惹かれ合っていく過程が描かれている。

デイズニーピクサー作品の一つであり、映像の美しさはもちろん、家族を想う心、伝統を守ること、自我の芽生え、自分とは異なる他者を思い認める気持ちが盛り込まれており、素晴らしい作品であった。

『キングダム 運命の炎』

戦災孤児の信は亡き友に似た秦の国王エイ政と、中華統一への道を進んでいた。初陣を成功させた信は、百人を率いる将と昇進し大將軍への道を進む。一方、趙が大軍を率いて侵攻してきたという報せに、馬陽で迎え撃とうとするエイ政は、王騎を総大将に任命する。

この作品はキングダムシリーズの三作品目であり、前二作品も面白い作品であり、今回も期待して見た。豪華な俳優陣で構成されており主人公の信が仲間と協力して、成長していく姿にとっても心がうたれた。しかし、四作品目につながる終わり方であり、モヤモヤした気持ちが残った。

「トランスフォーマー／ビースト覚醒」

シリーズを通じての最凶最悪の敵である超巨大トランスフォーマー・ユニクロンの驚異に、オプティマスプライム（コンボイ）率いるオートボット軍団とオプティマスプライマル（ビーストコンボイ）率いるビースト戦士集団マクシマルが力を合わせて立ち向かう姿を描く。

ビースト達のトランスフォームの命懸けで地球の滅亡を防いでいる姿はとてまかつこよかった。CGが多く使われており、大迫力のスピーディで重量感溢れる戦闘アクションシーンは、絶対に邦画実写では観られない規模と技術なので観てよかった。

「名探偵コナン 黒鉄の魚影」

東京・八丈島近海に建設された世界中の防犯カメラをつなぐ海洋施設「パシフィック・ブイ」。ホエールウォッチングに来ていたコナンは、沖矢昴（赤井秀一）から連絡を受け、黒の組織との関連を感じて施設に潜入する。そこで女性エンジニアの誘拐事件が起こり、灰原の元に黒の組織の影が忍びよりコナンはどう解決するのかが描かれている。

今回は灰原哀ちゃんを中心に話が展開されており、哀ちゃんを黒の組織から仲間全員がそれぞれの立場から哀ちゃんを守ろうとする、その構造に感動した。たくさんのコナン作品がある中、毎回面白い作品で次回も楽しみである。舞台が東京の八丈島近海という綺麗なところで、自分の目で見たいと思った。

「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー3」

銀河を完璧な世界に作り変えようとするハイ・エボリュションナリーの差し金により、アダム・ウオーロックの奇襲を受け、ロケットが瀕死の状態に陥ってしまう。ロケットに付けられたキル・スイッチを解除するためガーディアンズ的面々は、ラヴェンジャーズと合流。そして、エボリュションナリーとの戦いが描かれている。

個々に傷や孤独や過ちを抱えながら、共通の目的を前に寄せ集めの結束力をいかに発揮してきた彼らだが、今回はこれまでの難題とも違う。チームの頭脳ともいべきロケットの知られざる過去を描きつつ、瀕死に陥った彼を救うため、仲間たちが危険を顧みず率先して敵の懐へと飛び込んでいく。頼れる仲間がいれば、そして他者のために成し遂げたいという意志があれば、きっと誰もが這い上がれる。そんなことを感じさせる感動的な作品であった。

「秒速5センチメートル」

小学校の卒業と同時に離ればなれになった貴樹と明里。ふたりは互いに特別な想いを抱いていたが、時間だけが淡々と過ぎていった。そんなある日、大雪が降る中、ついに貴樹は明里に会いに行く決心をする。誰もが経験する日々を切り取った切なくも美しいラブストーリー。

この作品はあの「君の名は」や「言の葉の庭」などたくさんの大ヒットを生み出した新海誠監督の作品である。片想い、両想い、迷い、葛藤などが必ず通ったことのある感情が描かれており、人それぞれ生きる速度が違うのだなど切なく感じるストーリー。

「殺さない彼と死なない彼女」

何にも興味が持てず、退屈な高校生活を送る「殺す」が口癖の男子は、リストカットの常習犯で「死にたい」が口癖の女子に興味を持つ。ことあるごとにネガティブな発言を繰り返す女の子に、殺すぞと憎まれ口で返す男子、そして、本音で話しあう二人は、次第に一緒に時間を過ごすようになっていく話である。

この作品は好きとは何か。恋とは何か。みたいな、曖昧な物を物語にしてくれた映画であり、誰しもが感じたことがあるであろう、恋へのもどかしさ・歯痒さに感情移入してしまい、ラストが衝撃的すぎて、涙がとまらなくなる作品である。

「賭ケグルイ」

ギャンブルによる独自の階級制度が設けられた名門学校で、常識外れな狂ったギャンブルに興じる主人公・蛇喰夢子や彼女の周囲の生徒たちの戦いを描いた学園サスペンスストーリーである。

騙され騙し合い、ギャンブルシーンは毎回興奮させられる。主人公のギャンブル狂、夢子が最強すぎてさまざまなかさまに負けることない姿は特に面白くて見所である。自他共に絶大なリスクを背負っているときに溢れ出す狂気とセリフ「賭け狂いましょう！」に胸がゾクゾクする。

「四月は君の嘘」

母の死がきっかけでピアノが弾けなくなった天才ピアニスト有馬公生は、バイオリニストで自由奔放な宮園かをりに惹かれていく。この出会いをきっかけに、ピアノと母との思い出に向き合っていく

公生、そして、かをりもある秘密を抱えていた。お互いの才能を認め成長していく様子を切なく恋模様を織り交せて描かれている。

誰しもトラウマはあるはず。でもそのトラウマを誰かが手を差し伸べてくれたことで克服できることもあるのだと教えてくれた映画であった。音楽を通して繋がった二人はお互いの壁にぶち当たるがどうか乗り越えようとしていく。人は思っている以上に強い生き物だと感じた。

そして、最後に映画を観ることによって感じたメリットについて話す。感情移入がしやすく感性が豊かになる。知識・経験の量が増える。話のネタになる。非日常を味わえる。一人の時間を充実できる。これからもたくさん映画を観て大学生活をより良いものにしていきたい。

田舎のキャンパスと都会のキャンパス

中央大学 法学部法律学科 一年

舛本 晃誠

皆さんは今年、中央大学法学部のキャンパスが八王子から茗荷谷に移転してきたのをご存じだろうか。私は憧れの八王子のどでかいキャンパスに行く気満々だったのだが、大学が移転することを知ら

ずに受験してしまい、合格後に移転することを知ってショックを受けた。東京二十三区という大都会に行くつもりなど毛頭なかったからだ。八王子の田舎のキャンパスで四年間のんびりと暮らし、他学部のいろんな人たちと青春を過ごす予定だったが、私の予定とは裏腹に大都会に出てきてしまった。そもそも私が学費の高い私立大学に行こうと思ったのは、八王子なら田舎なので家賃も交通費もそんなにかからないだろうと踏んでのことである。ところが東京二十三区という家賃も物価も高いところで一人暮らしして私立大学に通い、奨学金も借りていないなどんだ親不孝者である。焦った私は狭いところでも良いからせめて家賃は安いところに住もうと思いい、いろいろ調べて岩陽学舎のことを知った。最初、岩陽学舎のことを知ったときは「東京で家賃三万とは詐欺か事故物件ではないのか」と疑っていたが、結局、家賃三万という甘い蜜に吸い寄せられて入舎してしまった。入舎してからは驚きの連続だった。「どうせ狭いんだろうな。俺のキャンパスライフが」と嘆いていたが、部屋は思ったより広がった。しかも、入舎して半年経ったがいまだに幽霊らしきものは見かけていない。お祓い用に大量に用意していた塩が無駄になってしまった。また、東京で生活し始めてからも驚きの連続だった。とにかく人が多い。東京は日本の人口の三分の一が集中していると聞いていたのである程度のは覚悟していたが、私の予想を遙かに上回る人口密度を体感した。特に電車がすごかった。生まれて初めて満員電車というものを体験した。駅員さんに押し込まれて窒息死するかと思った。大学内でも驚きの連続だった。

た。なんと大学内にエスカレーターやエレベーターがあるのだ。高校時代に「階段じゃなくて学校内にエスカレーター作れよ。疲れるだろ。」と思っていたが、私が望んでいた光景が目の前にあるのだ。しかし、残念なことに学生が多すぎてエレベーターはめったに使えない。私がつもっていた岩国高校では一学年二四〇人で全学生数は二四〇×三で七二〇人だったが、中央大学法学部では一学年一、七〇〇人で全学生数は一、七〇〇×四で六、八〇〇人いる。文字通り桁違いなのだ。結局、エレベーターやエスカレーターは人が多いので階段で移動している。茗荷谷キャンパスは教室が六階から地下二階までの全八階ある。敷地が狭い性質上、縦に伸ばすしかないのだ。大学生になって驚いたことが、いちいち授業が終わるたびに次の教室へ移動しなければならないことだ。一時間目が地下一階で二時間目が五階ということもあった。授業のたびに私は遊牧民のごとく移動しなければならず、階段で移動するので最初の一ヶ月は足腰が悲鳴を上げていた。最近では人口密度にも階段にも慣れてきて、案外快適に暮らしているのだが、この半年間ずっと思っていることがある。それは「もしキャンパスが八王子のままだったら、私はもっと良い大学生活を送っていたのではないのか」ということだ。

ということ前置きが長くなったが、今回の舎誌では田舎のキャンパスと都会のキャンパスのメリットとデメリットを、中央大学の多摩キャンパス（八王子）と茗荷谷キャンパスをベースにそれぞれ考察していこうと思う。

まず、田舎と都会の違いとは何だろうか。ウィキペディアによる

と、「田舎とは人口や住宅がまばらで辺鄙な地域を指す概念・用語である」とある。よって、ここでは田舎と都会の基準を人口だと仮定する。しかし、ここで田舎と都会の違いを人口だと仮定してしまうと少々問題が生じてしまう。八王子市の人口は約六十万人で、岩国の人口は約十四万人、下関でも約二十七万人なのである。この仮定条件では岩国や下関が田舎を通り越して辺境の地となってしまう。我が故郷である岩国を田舎だと言われるのはなんか癪に障る。それに、山口県で一番都会（と言われている）である下関まで田舎としてしまうと山口県全体が田舎だということを肯定してしまうことになる。これは誠に遺憾である・・・とまあ、個人的な感情は置いておいて、ここでいう問題とは「私が岩国を田舎だと思っていないこと」である。私は岩国に住んでいて自分の町を田舎だと感じたことはないが、八王子に行ったときは田舎だと感じた。これでは矛盾が生じてしまう。ではなぜこのような矛盾が生じたのか？それは、私の言う岩国が岩国駅周辺のこと、私の言う八王子が中央大学の多摩キャンパス周辺のことだからである。私の実家は岩国駅から徒歩三分であり、ずっとそこに住んでいたのだから岩国と言えそこをイメージしてしまう。駅周辺は大体どこの都市でも比較的栄えているが、多摩キャンパスは山奥に位置しており、八王子の中でも特に田舎の場所に位置する。これが矛盾の答えだ。人口の多い都市に位置していても田舎にある大学はたくさんある。例えば、九州大学がいい例だ。九州大学は福岡という九州で最も人口の多いところにあるが、九大自体は田舎に位置している（らしい）。このよう

に、田舎と都会の基準は人口だけでは決まらない。では、住宅地や建物の多さではどうだろうか。これなら先ほどの例でもしっくりくるし、茗荷谷キャンパスと多摩キャンパスの周辺の住宅地や建物の多さを見比べると一目瞭然である。しかし、大学の観点から見ると、キャンパス周辺に住宅地が少ない方がメリットがある。近隣住民との騒音問題が少なくなるからだ。茗荷谷キャンパスでは、キャンパスと茗荷谷駅の間の一つ建物がある。そこに住んでいる人たちが大学に「大学生の声がうるさい。プライバシーの侵害だ。」と訴えているという騒音問題が発生している。このように、住宅地や建物が少ない多摩キャンパスの方がよいと思われるが、建物が少ないと言うことは娯楽や飲食店が少ないことを表している。田舎者が都会に出てきて驚くことの一つにコンビニやマクドナルドなどの飲食店の多さが挙げられる。茗荷谷キャンパスの近くには、コンビニはもちろん餃子の王将や松屋、サイゼリアなどの様々な飲食店がある。茗荷谷キャンパスの学食は非常に狭く、学生が多すぎて席がないので私はいつもこれらの飲食店にお世話になっている。これは周辺に何もない多摩キャンパスでは成し得なかっただろう（そもそも多摩キャンパスの学食は規模が大きく充実しているため、学食に入れないという事は起こらないだろう）。それに、駅が近くにあることも大学の立地面にとって重要なことであろう。茗荷谷キャンパスは駅から徒歩一分もかからないという好立地のように思えるが、多摩キャンパスは駅から徒歩〇秒なのである。これには「？」と思う方もおられるだろうが、どういふことかと言うと駅と

キャンパスがつながっているのである。駅の出口からキャンパスまでつながっており、雨が降っていても傘を差すことなく大学へ向かうことができるのだ。このことから、駅からの立地面では多摩キャンパスの完全勝利のように思われるが、そうは問屋が卸さない。多摩キャンパス直通の駅である中央大学・明星大学駅を通る多摩モノレール線には毎日何万人もの中央大学や明星大学の学生が乗り込む。そこで問題が発生する。人が多すぎて乗れないのだ。そもそも田舎の電車である多摩モノレール線は都会の電車のように数分に一本電車が来て大量の人口を捌けるようにはできていない。そのため混雑してしまい、学校にたどり着けない学生が大量発生してしまう。それに、たとえ乗れたとしても電車内がぎゅうぎゅう詰めでも不快な気分になる。この点は、毎日多くの岩国高校の学生が乗り込むのに一両編成で、一時間に一本あるかないかの岩○線や錦○清流線にとてもよく似ている。その点、茗荷谷キャンパスの最寄り駅である茗荷谷駅を通る丸ノ内線は数分に一本電車が来て、おまけに地下鉄なので雨の影響を受けることがない。ちよつと雨が降っただけですぐ運行中止になる○徳線や錦川○流線は見習ってほしいものである。

このように、都会のキャンパスでは飲食店や娯楽が多かったり公共交通機関が発達して便利だったりというメリットがあるが、人が多すぎて歩道を歩くだけでもストレスが溜まったり近隣住民とのトラブルがあったりキャンパスが狭いこともあるというデメリットがある。対して、田舎のキャンパスでは、大学へのアクセスが悪

かったり周辺に何も娯楽がなかったりというデメリットがあるが、土地の物価が安いのでキャンパスが広い大学が多いというメリットがある。どちらも一長一短だが、都会に出てきて社会に揉まれるのもよし、田舎でのんびり四年間過ごすのもよし、どちらも良い経験や思い出になると思う。

上京して

青山学院大学 文学部フランス文学科 一年

三上 広太

僕はこの春から大学進学のために岩国から上京し、今は岩陽学舎で一人暮らしをしています。上京をしてきて四ヶ月ほど経ち、東京での生活にも慣れてきました。家族や地元の友達と離れ、新しい環境での生活ということもあり最初は本当に不安なことだらけでした。しかし今では岩陽学舎や大学でも友達ができ、充実した毎日を送っています。そんな上京をしての経験やその中で気づいたことや考えたことについて書こうと思います。

まず、上京をしてきて岩国と違っていて驚いたことがいくつかあります。一つはやはり人の多さです。分かっていたことではありませんが、東京はいつでもどこに行っても本当に人が多いです。大学の最寄

り駅が渋谷駅なこともあり、毎日人の多さに驚いています。そんな人が多いのにも関わらず、エスカレーターでは全員が左側に綺麗に並ぶのにも驚きました。岩国で過ごしていた時はエスカレーターの乗り方などにも考えていなかったもので、初めて見た時はびっくりしました。家のことに関して言うと、ゴミの分別のしやすさに驚きました。岩国ではゴミの分別が厳しいですが、東京では紙もプラスチックもまとめて燃えるゴミで捨てることができ、楽だなと感じています。関東出身の友達には方言について言われたりします。特に驚いたのは「えらい」が通じなかったことです。今まで無意識で使ってきたもので方言だと知らなかったのも、「えらい」も方言なのかと驚きました。

東京にきて感動したこともいくつかあります。まず、電車の本数です。岩国では路線によっては三十分一本や一時間に一本しか電車が来ない路線もあります。しかし、東京では数分間隔で電車が来て、しかも車両も多いのでいつ駅に着いても電車に乗ることがができます。また、上京して来て初めて東京駅に行ったのですが、夜でも明るくて綺麗で感動しました。また、都心では色んな服装をした人がいて素敵だなと思いました。

大学では、色々な考えを持った人がいて刺激的な毎日を送っています。学業の面では、文学部のフランス文学科というところに在籍しているので、普段の授業ではフランス語を中心に勉強しています。フランス語は文法だけでなく発音も難しく、課題等も多く出されます。また、第二外国語の授業で韓国語を取っていて韓国語の勉

強もしているので、覚えることが多くて大変です。ですが、韓国語は日本語の文法と似ていて、ハングルさえ覚えてしまえばフランス語と比べると断然覚えやすいです。言語の勉強というところで大変なことも沢山ありますが、分からないところは先生に積極的に聞いたり、友達と教えあったりして頑張っています。フランス語や韓国語の授業の他にもいくつか授業がありますが、その中でもフランスの文化と社会という必修の授業が一番好きな授業です。フランスの歴史を学びながらそれと同時にフランスの文化等を知れるので面白いです。夏休みが終わるとすぐに後期の授業が始まります。前期はテストも無事乗り越えることができましたが、後期からはフランス語の授業もさらに難しいものになると思います。今まで以上に予習や復習を大切にし、より知識を深めていけたらなと思います。学業面以外でも、サークルにも入り、大学生活を楽しんでいます。ボランティアのサークルに入っているのですが、ボランティアをするだけでなく、先輩方がバーベキューなどのイベントを企画してくださったり、サークルの中で東京の色々な場所に行ったり、大学生ならではの経験も出ています。学部の友達だけでなくサークルでも交友関係が広がり、空きコマや授業が終わった後には友達と大学の近くでご飯を食べたり、買い物に行ったりして過ごしています。また初めてのアバイトも始めて、お金を稼ぐことの大変さを知りました。接客業で学べることも多く、良い社会経験ができています。岩国にいただけでは経験できないことも多くあるので、東京の大学にきて良かったなと感じています。

しかし、一人暮らしをしていると寂しくなることもあります。今は大学も夏休みに入り、岩国に帰省しているのですが、実家に帰ると親のありがたみを改めて実感させられました。初めての一人暮らしで、もちろん家事も自分一人でやらなくてはいけません。面倒なことも多く、それを毎日やってくれた母に感謝しないとイケないなと思いました。今回が大学に進学して初めての帰省ということもあり、久しぶりに会えた地元の友達とも沢山遊んでいます。中学の時の友達とは花火をしました。毎年、夏休みになると皆で集まって花火をしています。それぞれが違う道に進んでいるので全員で集まれる機会が少なくなってきましたが、今年の夏も無事に全員で集まれて花火ができて良かったです。別の友達とは、福山の花火大会に行こうと思いい、尾道あたりまで車で行きましたが、雨で中止になってしまいました。花火大会は中止になってしまいました。ドライブをして色々な話ができて楽しかったです。高校の時の友達とは、夜ご飯に焼肉を食べに行きました。久しぶりに会えて、それぞれの近況報告を聞くことができました。家族や地元の友達にも会える機会が少ないので、冬休みや春休みなどにも定期的に元気な顔を見せられたらなと思います。

一年生の前期を終えましたが、本当に一瞬で時間が過ぎました。この調子だと大学生活の四年間もあっという間に終わってしまうと思います。せっかく東京に出てきて有意義な大学生活を送れているので、大学生活を後悔のないように過ごしていきたいです。より有意義な学生生活を送るためにも、色々な人と関わり、学内に限らず

学外でも様々な経験を積んでいたらなと思います。また、高校生の時までは英語が得意科目だったので、それを活かしてTOEICなどの資格試験にも挑戦していきたいです。

僕は自身は大学進学のために上京してきましたが、東京で過ごしてみても、上京することには沢山のメリットがあるように感じています。まず一つは、自分が大学進学のために進学したように、東京は教育機関が充実しています。それによって全国各地から様々な価値観を持った人たちが集まり、多くの人と関わるようになります。色々な価値観に触れることで、広い視野を持てるようになります。また、東京では多彩なイベント等が開催されたり、美味しいご飯屋さんがあつたりととにかくなんでもあります。遊ぶところにも困らないので、自分から能動的に動けば、都会でしか味わえない刺激的な体験もできると感じています。交通の便もいいので、都市圏はもちろんですが都市圏外にも簡単にアクセスすることができま

す。四月に上京してきて、今振り返って考えてみると岩国にいただけでは経験できないことを沢山経験できており、学業的な面だけでなく人間的にも大きく成長できていると実感しています。また、上京を通して自分の可能性を広げることができたと考えています。学生として過ごせる時間は有限で本当に短いものだと思うので、今を無駄にせず有意義な学生生活を送れたらなと思います。

編集後記

駒澤大学 文学部国文学科 二年 河井 風香

今回第五三号舎誌をお読みいただき、誠にありがとうございます。そして、三宅さん、舎誌を提出してくださった舎生・OBの皆様、関係者各位に重ねて感謝を申し上げます。

昨年度の舎誌を読んだ際に、それぞれの個性が出ていてとても興味深かったことを覚えています。今年度も編集をするときに舎生全員の舎誌を読むと、理系・文系それぞれの視点からの論文があり、個人的にも視野が広がる良い経験になりました。他にも趣味についてお書きになっている方もいましたが、言葉に書き出すことでさらに自分の趣味を深掘する良い機会になったのではと感じました。私事ですが、最近一人映画にハマっているため、映画について取り上げている舎生が多く、読みながら編集をすることが楽しかったです。編集という作業を通して、言い回しの難しさや形式の統一の大変さ、そして全員分の舎誌を編集するため、多くの時間を要し、大学の夏期課題やアルバイトなどの自分の予定との調整の難しさを痛感しました。しかし、広報担当の補佐の片山さんを始めとする関係者の方々に協力していただき、より良いものにしたのではと思っております。皆様方の支えにより今年も無事に舎誌を発行できたこと、その編集に携われたこと、心より御礼申し上げます。これからも広報担当としてより多くの方に岩陽学舎を知っていただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

東京音楽大学 音楽学部音楽学科 二年 片山 深晴

まずは、お忙しい中三〇〇〇字提出してくださった舎生の皆さんとOBの皆さん、ありがとうございます。皆さんのご協力のおかげで無事、二〇二三年の舎誌を完成させることができました。そして三宅さんをはじめ、今回力を貸していただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

それぞれ大学の授業や課題もある中、舎誌を書く時間をつくるのは本当に大変ですが、他大学に通う同期、先輩、後輩の文章を読むことで、自分の視野が広がり色々な面で成長することができるとは思っています。また普段頑張っている学生たちが考えていることを地元の方と共有できたり、何年後かに自分で読み返してみることが学生時代を振り返るきっかけになったりもするのではないのでしょうか。

今回編集を担当させていただいて私自身、舎生の皆さんの文章を読んで様々なことを知ることができ、出版する目標日までの余裕を持った期限の設定の仕方などについても勉強になりました。様々な良い経験ができる岩陽学舎の環境をありがたく思っています。来年からも続けていけたら嬉しいです。

これからも広報補佐として、岩陽学舎の存在や魅力をよりたくさんの方に知っていただけるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

公益財団法人岩陽学舎役員名簿 (令和5年10月1日現在)

役 職	氏 名	住 所	勤 務 先 等
名誉理事長	吉川重幹	東京都	吉川家第32代当主
名誉顧問	広中平祐	東京都	フィールズ賞・文化勲章受章者、岩国市名誉市民
顧 問	弘兼憲史	東京都	漫画家 (有)ヒロカネプロダクション社長
顧 問	向阪啓	川崎市	吉川林産興業(株)監査役
理 事 長	伊藤進吾	岩国市	桧山事務器(株)代表取締役会長
常務理事	大田憲明	横浜市	元公益財団法人岩陽学舎理事・舎監
〃	光井純	東京都	光井純&アソシエーツ建築設計事務所(株)社長
理 事	大森隆司	横浜市	元玉川大学教授
〃	佐倉弘之甫	岩国市	元岩国市教育委員会教育長
〃	川神康孝	岩国市	元シャープ(株)社員
〃	柿木秀雄	東京都	リンクアンドモチベーション関連会社社長
〃	原元典夫	岩国市	元(株)山口銀行取締役
監 事	武田昇平	東京都	弁護士 (ひかり総合法律事務所)
〃	松井宏通	広島市	(有)岩国さんあい代表取締役
評 議 員	谷本浩	東京都	元全日本空輸(株)社員
〃	松重義信	岩国市	元(株)カシワバラコーポレーション役員
〃	中村信利	岩国市	吉川林産興業(株)取締役
〃	手嶋良夫	東京都	元日本興亜損保社員
〃	菊元齊	岩国市	(株)岩崎宏健堂社員
〃	橋本聖嗣	岩国市	岩国市職員
職 員			
事務局長・舎監	三宅克彦	東京都	元(株)カシワバラコーポレーション

2023年11月発行

編集責任者 河井風香

発行者 吉谷碧海

発行所 岩陽学舎舎生会

〒143-0024

東京都大田区中央3丁目31-15

URL : <http://www.ganyogakusya.jp/>

電話 03 (3778) 5931



©岩陽学舎舎生会
